

宿題報告

結核ニ關スル集團檢診

(第18回日本結核病學會宿題報告)

大阪帝國大學教授 今村 荒 男

第1章 緒言

結核病ハコソホノ結核菌ニ因ル傳染病ナリ。從ツテ其豫防ニハ他ノ急性傳染病ノ夫レヲ大體遵守スベキナリ。既ニ古クエチンバラニ初メテ無料診療所ヲ創設セシフ、リツプスハ其責務ノ一トシテ患者周圍ノ檢診ヲ掲ゲタリ。家族檢診、周圍檢診、更ニ集團ノ檢診ニ就テハカイゼルーベテルセンガ「レントゲン」線ニヨル集團檢診ト題シテ、1937年ニ報告セリ。彼ノ報告ハ詳細ヲ極メ集團檢診ニ關スル多數ノ報告ヲ列舉シ、文獻ノ引用甚ダ多シ。

獨逸ニ於テハカ、ツエンチット、プロイニング、ツエルベル竝ニベレ、チ等モ集團檢診ニ就キ報告スル所多シ。米國ニ於テハ主トシテ學生ニ就テ米國學生健康協會ノ結核委員會ノ活動アリ。之ニ就テハ余ハ嘗ツテ日本醫事新報昭和12年11月第794號ニ其片鱗ヲ紹介セリ。其他各國ニ於テモ結核ニ關スル集團檢診ノ報告甚ダ多シ。我國ニ於テモ然リ。特ニ活動性結核發見ニ就テハ熊谷、有馬(英)、坂口、小田、大里諸教授等ノ教室ヨリ、既ニ本學會ニ於テ報告セラル、所多シ。殊ニ熊谷教授關係ニ於テハ報告多ク世ノ注目ヲ引ケリ。又我國陸海軍ニ於テ結核ニ關スル多數ノ集團檢診ガ施行セラレ其成績ハ結核豫防策ヲ講ズル爲ニ多大ノ參考ヲ與フル處ナリ。余ハ Reihenuntersuchung, Gruppenuntersuchung, Serienuntersuchung ヲ集團檢診ト邦譯シ、肺結核ニ關スル集團檢診ト題シ前記日本

醫事新報第794號ニ於テ記述シ今村内科關係ニテ施行セシ14團體9,409人ノ所謂健康者ニ就キ行ヘル成績ヲ記セリ。更ニ第16回本會總會ニ於テハ前報告後檢診セシ者ヲ加ヘ所謂健康者11,586人ニ就テ檢診シ其中509人ノX線「フィルム」撮影ヲナシ、活動性肺結核90例ヲ見出シタルヲ以テ、其ノ發見セシ患者ニ就キ「ツ」反應及赤沈ト年齢トノ關係等ニ就キ記セリ。

今回此問題ニ就キ宿題報告ヲ行フニ到リシハ所謂健康者ニ行フ所ノ肺結核ノ集團檢診ハ疫學的觀察、肺結核發生論等ニ資スル他、早期診斷ト早期治療ヲ計リ豫防的ニ働ク處甚ダ多シト考ヘ、又其方法ニ就テモ尙檢討スベキ事多キ故ナリ。螢光像縮寫ニ就テハ Abreu ノリオ・デ・ジャネイロニ於ケル經驗ノ發表以來、獨逸ニ於テ多ク行ハレ、1939年ニハホルフェルダ等ハ4ヶ月間ニ644,500人ニ就テ施行セルニ到レリ。我國ニ於テハ此方面ニ就テ既ニ古賀良彦氏ノ研究、又熊谷教授等ノ經驗アリ。本年ノ日本放射線醫學會ニ於テハ陸軍軍醫學校清野寬軍醫少佐ノ胸部集團「レントゲン」検査ニ就テノ宿題報告アリ。東北帝大、京大、阪大ヨリモ之ニ關スル演說アリ。本學會總會ニ於テモ亦之ニ關スル報告アリ。余モ亦今村内科關係ニ於テ行ヒタル螢光像縮寫ノ經驗ヲ、從來他ノ方法ニヨリ行ヒタル經驗ト共ニ報告セントス。

今村内科關係ニテ行ヒタル集團檢診ハ大阪府衛

生課、體力課、神戸職業紹介所、各種學校、商店等トノ協力ニヨリテ施行セルモノニシテ、(甲) 全員大「フィルム」撮影 3, 225、(乙) 一部大「フィルム」撮影 91, 409、(丙) 螢光像縮寫 12, 208、合計 106, 842 名ニ就テ肺結核、肺門淋巴腺結核、滲出性肋膜炎等ヲ所謂健康者ニ於テ見出セル經驗ナリ。上述(甲)(乙)ニ於テX線撮影ハ、大多數ニ於テ「フィルム」ヲ用ヒタルガ、一部分ハ普通「プロマイド」ヲ以テセリ。又螢光像縮寫ヲ爲セル物ノ内陰影アルモノハ更ニ大「フィルム」又ハ大「プロマイド」ニテ撮影ヲ行ヘリ。後者ハアマリ多數ナラザル集團檢診ニ於テハ「フィルム」ヨリ安價ナル故ニ用フベキ場合多シト考フ。故ニ余ハ既ニ志村ト共ニ記述セル處アルモ、更ニ其ノ利用價值アル事ヲ述ベントス。

螢光像縮寫ハ「レントゲン」ノ言フ「レントゲン、カタステル」ヲ實現スル有力ナル方法ト考フベク *Pfreimbter* ノ言フ結核ニ於ケル第三割期トシテ、*アプリウー・ホルフェルデル* ノ新法ヲ掲ゲタル事モ、決シテ誇張的ニ非ザル感アリ。余等ノ螢光像縮寫ノ小經驗ヲ以テスルモ其利用價值ノ存在疑ヒ無キ處ニシテ、其手技ハ今後尚多ク改良セラルベシ。

カイゼルベテルセン ハ結核相談所ハ患者ノ來ルヲ待タズ、進ンデ探シ出スベシト言ヘリ。結核豫防上ヨリ見テ結核相談所ノミナラズ一般實際醫家其他ニ於テ此積極的患者搜索ニ勉ムベキナリ。此意味ニ於テ結核ノ豫防策ハ根本的ニ其ノ急性傳染病ノ夫レト異ラズ、集團檢診ノ重要性ハ自ラ明カナリ。

第 2 章 肺結核集團檢診ノ方法其他

結核ノ疫學的研究トシテ「ツベルクリン」反應ノ集團の施行ハ興味アル事ナルモ、集團檢診(以下集檢ト略ス)ニ於テハ、活動性結核ノ發見等ニ及ブベキモノナリ。以下集檢ノ目的、對象、方法等ニ就キ其大要ヲ記セントス。

集檢ノ目的

集檢ノ *Reihenuntersuchung* ハ邦譯セルモノニシテ英語ノ *Mass examination* ニ一致ス。獨逸語ノ *Auffinden der Tuberkulösen*、英語ノ *Case finding* 等ハ集檢ノ最モ重要ナル事項ナルガ、集檢ニヨリテ、(1) 未自覺或ハ既自覺ノ活動性患者ヲ發見シ早期療養ヲ行ハシム。療養ヲ爲シ得ザル者ハ輕作業或ハ短作業ヲ行ハシメ、止ムヲ得ザル場合ハ普通作業ヲ行ハシメテ善キ生活ヲ爲サシメ、且他ヘノ傳染ヲ制限セシム。(2) 疑活動性者及ビ要注意者ニハ夫々適當ノ注意ヲ與ヘテ發病豫防ヲ爲ス。(3) *Terminmässige Untersuchung*、*Periodical examination* ニヨリ豫防接種ヲ受ケザル「ツ」反陰性者ノ陽性轉化者ニハ初感染疾患ノ發病豫防ニ注意ス。尙附帶的ニハ「ツ」反陰性健康者ニハ場合ニヨレバ豫防

接種ノ實行ヲ期スベキナリ。以上ノ如ク集檢ニハ種々ノ目的アルモ場合ニヨリテハ患者發見ノミニ限ラルル事モアリ得ベシ。尙集檢ニ於テ結核性疾患ノミナラズ他ノ疾患ヲモ見出シ之ヲ治療スル機會ヲ能フベク、又胸部「レントゲン」像檢査ガ廣ク應用セラルレバ、肺結核ノミナラズ、他ノ肺疾患、心臟疾患等ノ發見ニモ便ズベシ。

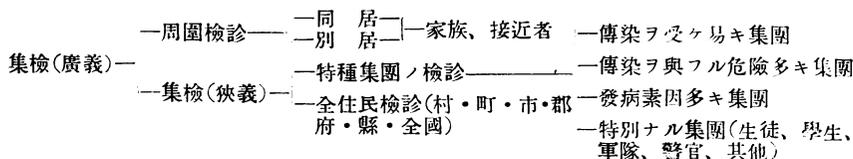
集檢ノ對象

結核ニ重キヲ置ク集檢ニ於テ *カイゼル・ベテルセン* ハ自分自身及ビ *ブロイニング・ペレッチェルベル* 等ノ對象分類ヲ列舉セルガ、集檢ノ對象ヲ大別スレバ、(1) 結核菌ノ傳染ヲ受ケ易キ集團、*Exponierte* (2) 他人ヘヨリ多ク傳染ヲ與ヘ得ル職業者 *Gefährdende* 此兩者ヲ兼ヌル接客業者ノ如キモノアリ。(3) 職業上結核發病ヲ起シ易キ集團 *Disponierte* (4) 生徒、學生其他特種集團ニ分チ得ベシ。

集檢ノ廣義ナルモノヲ分テバ、第一ハ周圍檢診ニシテ家族檢診ヲ含ミ大體ニ於テ *カイゼル・ベテルセン* ノ *Beziehungsuntersuchung* ニ一致ス。此中ニハ家族其他ノ同居者、別居ノ家族、

近接者等が含まル。第二ハ狹義集檢ニシテ多人數ヲ含ム集檢ニ行フモノニシテ、單ニ集檢ト言ヘバ之ヲ意味ス。檢診ガアル地方ノ住民、アル國民ノ全員ニ行フハ、全住民檢診(「カタステル」檢診 Katasteruntersuchung) ナリ。集檢ニ於

テ結核患者發見率ヨリ言ヘバ、周圍檢診ガ最モ能率高キ故ニ、我國ニ於テハ先ヅ之ガ最モ多ク施行セラルベキナリ。他面ニ於テ我國ニ於テアル職業ニ就キテハ、集檢ニヨル患者檢出率高キ故ニ集檢ガ結核豫防上大切ナルハ言テ俟タズ。



集檢ノ方法

集檢ノ目的ハ患者發見ガ主要目的ナル故ニ其方法ニ就テハ先ヅ活動性診斷ヲ考フベキモノニシテ、之ハ(1)喀痰中ノ結核菌證明、(2)胸部「レントゲン」検査、(3)理學的の症狀、(4)特一熱、榮養等ガ最モ重要ナル事項ナリ。

喀痰中ノ結核菌檢出ニヨル集檢トシテハ我國ニ於テ高田六郎氏ノ報告アリ。氏ノ報告ノ如ク集團各員ノ喀痰ヲ集メ得ルナレバ患者發見ノミヲ目的トスルニハ一方法タルベキモ、喀痰ヲ喀出セザル活動性結核患者アル他ニ、喀痰ヲ提供セザル者多キ集團ニハ喀痰検査ノミニ依ル能ハザル場合アリ。余ハ此度ハ喀痰検査ノミニヨル集檢ニ就テハ論及セズ。

更ニ檢温ニヨリ先ヅ有熱者ヲ見出シ、之ヲ精細ニ檢診スル方法アリ。之ニ就テハ教室ノ有馬等ガ本學會席上ニ於テ報告スル處ナルガ、一般ニ之ヲ行フ事ハ容易ナラズ。榮養ニ重キヲ置ク方法モ一回ノ検査ニヨリテ活動性ヲ定ムル能ハズ、又體重減少セザル患者モ多數アルヲ以テ視診ノミニヨリテ活動性ノ疑アル者ヲ判斷スル能ハザルハ後述スル處ナリ。勿論練達ナル醫師ノ視診ハ尊重スベキモ集檢ニ従事スル醫師凡テガ必ズシモ大ニ練達ナリト云フ能ハザルナリ。

胸部理學的の症狀ノ検査モ著明ナル理學的の症狀ヲ呈セザル活動性肺結核ノ相當多キ事ハ文獻ニ於テモ知ル處ニシテ、教室ノ平尾ハ嘗ツテ本學會ニ於テ此問題ニ就キ報告スル處アリタリ。余モ亦之ニ就テ後述セントス。

要スルニX線像ニ重キヲ置ク集檢ガ最モ合理的ナルガ故ニ全員ニX線検査ヲ爲ス事ガ理想的ナルモ、爲シ得ザル場合アリ。カ、ル場合ニハ要X線検査者ヲ定ムベキナリ。余等ノ活動性ト診斷セルハ總テX線像ヲ參考トナセリ。

要 X 線検査者ノ決定

(1)「ツベルクリン」反應陽性者ノ全部ニX線検査ヲ行フ。此方法ハ多ク行ハル、モノナリ。米國學生健康協會ノ結核委員會ニ於テ1932年ニハ、大學生ノ結核ニ對スル「プログラム」ヲ決定シ、檢診ノ方法トシテハ、(1)完全ナル「ヒストリー」、(2)胸部ノ理學的の調査、特ニ「ラッセル」ニハ呼氣性咳嗽ノ後ノ吸氣ニ於テ聞ク。(3)「ツベルクリン」皮内反應ヲ檢スル。陰性者ハ少ク共毎年之ヲ繰返ス。(4)X線寫眞ヲ上述ノ調査ニヨリテ應用ス。「ツ」反應ガ陰性ヨリ陽性ニ轉化セシ者ニハ「ステレオスコピックフィルム」ヲ撮影ス、等ヲ掲ゲタルガ、マイヤース及ソボア等ハTuberculin test and X-ray examinationヲ強調シ「ツ」反應陽性者ノ成ル可ク全部ニX線検査ヲ行ヘリ。

余等ハ多クノ場合ニ於テ、先ヅ「ツ」皮内反應ヲ檢シ、他方ニハ歴史、特ニ結核性疾患、肋膜炎、度々ノ感冒、家族歴、主訴、全身症狀、胸部理學的の所見、咳嗽、喀痰、喀痰中ノ結核菌ヲ參考トシ、全身症狀ニ於テハ赤沈ヲ參考トセル場合多キナリ。以上ノ如キ調査ノ間ニハ豫メ「カルテ」ニ種々ナル質問事項ヲ記入セシメ、種々ノ檢診ヲ行ヒタル後X線検査ヲ要スル者ヲ決定セ

ル場合多シ。「フィルム」大撮影ヲ行フ場合ニハ費用ノ關係ヨリシテ要X線検査者ヲ定ムルニハ上記ノ諸點ヲ參考トシ取捨ヲ行フ。

利用スベキX線検査法

(1)大撮影 Grossenaufnahme

(イ)「フィルム」撮影

(ロ)寫眞紙撮影 「レントゲン・パピール」、普通「プロマイド」

Heisig ハ「ロール・パピール」ヲ用ユ。

(2)Schirmbildphotographie 螢光像縮寫、或ハ間接撮影

(3)Durchleuchtung 透視法等アリ。

其選擇ハ費用、設備、人數、檢診時日等ニヨルモノニシテ理想的ナルハ大撮影ニシテ全員「フィルム」ヲ用フルモノナル事ハ勿論ナリ。次ハ全員寫眞紙ナリ。ハイジツヒハ「レントゲン・パピール」ヲ用ヒ1時間50人ヲ檢診シ費用ヲ計算シテ曰ク、螢光像縮寫ニヨル陰影ヲ更ニ「フィルム」又ハ寫眞紙ニテ大撮影ヲナストナレバ「レントゲン・パピール」ヲ用ユル方費用少シトセリ。螢光像縮寫ニヨルX線像ハ勿論不十分ニシテブロイニングノ比較研究ニヨレバ0.5—1.0耗ノ大キサノ病竈ハ屢々見落サレ、1耗以上ハ可成確實ニ見ルヲ得トナセリ。之ハ2.4×2.4ノ「フィルム」ニヨルガ7.5×7.5ノ「フィルム」ニヨリテモ尙病竈性質判斷ニハ不十分トセリ。熊谷教授等ハ後者ニ近キモノヲ用ヒルモ、大ニナレバナル程費用モ大ナルヲ以テ、必ズシモ一般的ニ用フベシト言フ能ハズ。余等ノ經驗ニヨレバ2.4×2.4ニテモ相當ニ利用スベキ價值アリト信ズ。殊ニ活動性診斷ヲ精確ニナス必要ナクシテ何等カノ病竈アル者ヲ見出ス爲ナレバ、2.4×2.4ニテモ費用及時間ノ上ヨリ見テ大ニ用フベキモノナリト考フ。透視法ノ利用ニ就テハ既ニ多クノ意見アリ。要ハ技術ノ熟練ノ如何、時間、像ノ寫眞ヲ得ザル事等ヲ考フベキガ多數ニ用フ事ハ不可能ナリ。

「レントゲン・パピール」ニ就テハ余及志村ハ既ニ報告シ、志村ハ今回ノ學會ニ於テモ述ブル處

アリ。「フィルム」ガ高價且入手困難ナル故ニ普通「プロマイド」撮影ニテモ病竈ノ判斷ニ相當利用セラルベキ故ニ、比較的人數少キ集團檢診ニテハ全員ニ之ヲ施シ得ベク費用ハ大體「フィルム」5或ハ6ニ對シテ1ノ割合ナリ。カ、ル故ニ患者發見ノ集團檢診ニハ使用セラルベシト考フルモ、多人數ヲ尙輕費用ニテ檢診スル場合ニハ螢光像縮寫法ガ優レル點アリ。此方法モホールフェルデルニヨレバ昨年ニハ既ニ改良第4回目ノ器械ヲ得タリト報告セルガ、今後其發達ハ刮目スベキナリ。カ、ル情勢ナル故ニ螢光像縮寫法ニ就テハ決定的ニ論ズル能ハズ、今ハ唯余等ノ用ヒタル方法ヲ記述セルニ止ム。

用ヒタル螢光像縮寫法

大體ニ於テ Abreu-Holfelder ノ方法ニヨレリ。螢光板ヲ備ヘル木製暗箱ヲ作レリ。螢光板ニ結ブ「カメラ」焦點距離90種、螢光板ノ内側ニ20%含鉛「ガラス」ヲ插入ス。

螢光板ハ獨逸「ハイデン」製「ネオサール」40×40。「カメラ」ハ「ブラ、ク・コンタ、クス・ゾナー」F1.5。

「フィルム」ハ「アグファ・ライカ」用「スーパーパン」。

管球ハ多クハ「シーレックス」水冷式10 KW。

發生裝置ハ單相交流半整流「オリエンズ」號。或ハ三相交流全整流愛宕號ヲ用ヒ、距離約1米。

電壓ハ三相交流ニテ70 kPv。電流90—100 MA。普通ハ露光0.15秒、單相半整流ニテハ電壓75 kPv。電流95—100 MA、露光約0.2秒ナリ。

被檢者ハ身長ニ應ジテ膝ノ屈曲ニヨリ胸部ノ高サヲ一定セシム。暗箱ノ中央部ニテ顔ヲ置クベキ所ヲ割り取り、暗箱ヨリ後方ニ出シタル腕木ニヨリ兩肩ヲ抑ヘシム。

ホールフェルデルノ注意ノ如キ號令ヲ發シ深呼吸ノ位置ニテ撮影セリ。

以下特ニ2集團ニ於ケル實際ヲ記ス。

集團檢診例 阪神間K工場ニ於ケル實際。

毎日午後1時半ヨリ5時迄ノ豫定ニテ被檢者1日平均

350人、總員5200名ニ就テ行ヒタリ。管球「シーレックス」10 kw 2本ヲ用ヒ、「ライカ」用「フィルム」1本

ヲ寫シ終ル毎ニ管球ヲ換ヘ、其都度水ヲ替ヘタリ。「ライカ」用「フィルム」1本ニテ34名ヲ撮影シ、放電其他一ヨリ失敗アルヲ見積リ2枚ノ餘裕ヲ見置キタリ。即チ被檢者34名ヲ1群トナシ、各人ニ番號ヲ與ヘル事ニヨリテ、各人ト「フィルム」トノ間ニ齟齬無キヲ期シタリ。

當工場ニ於ケル成績ヨリ見レバ「フィルム」ノ入レ換ヘ、管球ノ取り換ヘ等ノ時間ヲモ含メテ、1時間平均163名ヲ撮影スルハ容易ニシテ装置ノ能率、撮影ニ従事スル人数等ヲ整備スレバ、1時間180名位迄ハ可能ナリト考ヘタリ。

集團檢診例 大阪市某室内労働者ニ於ル實際。

本集團ニ於テハ全被檢者約2,600名ヲ3日間ニ撮影シ終ヘタリ。即チ第1日ハ午前9時ヨリ午後5時半ニ到ル7時間半(晝食休憩1時間ニテ)1,125名、第2日ハ午後ノミ約900名。第3日ハ午前及午後ニテ残り全部ヲ撮影シ、第1日ニ於テ最モ速キ時ハ1時間ニ240名ヲ撮影スルヲ得タリ。當集團檢診ニ際シテハ装置ハ三相交流、管球ハ「シーレックス」10kw3本ニテ交代使用セリ。

撮影ニ従事スル人員ハ受付事務員2名、撮影前ニ「カルテ」番號ヲ確ムル事務員1名。撮影前ニ撮影姿勢ヲ練習セシムル醫師、撮影時ニ姿勢ヲ正シムル醫師各1名、寫眞器「シャッター」ヲ切ル技術員、「レントゲン」装置ノ「スイッチ」ヲ入レル技術員及ビ「フィルム」ノ入レ換ヘ及ビ現像ノ技術員各1名、計醫師3名、技術員3名、事務員3名ヲ要シタリ。コノ内事務員ハ看護婦ヲ以テ代用セシメ得。尙此際撮影前ニ姿勢ヲ練習セシムル事ハ、撮影速度ヲ大ナラシムルニ大ニニ效果アルヲ認メタリ。

現像ハ「メトール」ヲ多クセル泰氏ノ現像液ヲ用ヒタリ。本現像液ハ攝氏16度ニテ4分半ニテ現像ヲ終了シ得ル利益アリテ、約2時間ニテ技術員2名ニテ約12本ヲ現像シ得タリ。

判定ハ余等モ「ライツ」製ノアル「プロジェクト」ニテ行ヒタルモ、亦相川氏ノ推奨セル如ク暗室「ランプ」ニ乳白色「ガラス」ヲ置キ、ソノ透過光線ニテ判定スルモ、大シタ不都合ヲ認メズ。

以上ハ今村内科ニ於テ行ヘル經驗ナルガ、日赤

兵庫支部療養院ニ於テ中谷、中村等ハ三相交流全整流平安號ヲ用ヒ、管球ハ「シーレックス」10KW、螢光板ハ「バターソン」B、「カメラ」ハ「コンタックス」F1.5、螢光板ニ結ブ「カメラ」焦點距離90糎ニテ、「アタチメント」ヲ使用シ、管球電壓、「フィルム」及ビ現像液ヲ種々ナル場合ニ就テ比較研究ヲナセリ。而シテ最良ナル寫眞ハ80kPv、120mA、0.2秒ノ條件ニテ、「サクラフィルム」ヲ用ヒ、六櫻社現像液ニテ現像セル時ニ得タルモ、各種ノ條件ニ依リテ最適ノ方法ハ自ラ異ルベキハ當然ナリ。

「レントゲン・パピール」

一般ニ「レントゲン・パピール」ト稱スルハ「レントゲンフィルム」ノ代用トシテ特ニ製作セラレタル物ナルモ、余等ハ一般寫眞用トシテ販賣セラル、臭素紙「プロマイド」ヲ用ヒタリ。尙電送用「プロマイド」ハ引伸用一比シ感光度早キ故ニ尙一層ノ利益アルヲ認メタリ。「プロマイド」ニヨリ撮影スル際ハ、發生装置トシテ三相交流全整流ヲ用ヒタル場合、距離1米、管球電壓65—70kPv、電流70—90MAノ條件ニテ「ハイデン」製「スペシャルラピッド」増感紙ヲ用ヒ、ソノ後面ト「プロマイド」ノ膜面ヲ接シ「カセ」テ中ニ入レタル場合ハ、ソノ露光時間ハ中等度體格者一テ0.7秒前後ニテ十分ナルモ、肥滿セル人ニテハ1.0秒前後ニテ撮影シ得タリ。

尙「プロマイド」ノ利用ニ就テハ今村、志村ノ報告セル處ナルモ、志村ハ本學會ニ於テ更ニ報告スルヲ以テ詳細ハ省略ス。電モ角「プロマイド」ハ前述ノ如ク廉價ナルヲ以テ集團檢診ニ於ケル利用價値アルモノト認ム。

尙「フィルム」撮影ヲナセル場合、多クハ各集團ニ出張檢診ヲ行フ必要上、「ポータブル」装置ヲ以テ撮影セル事多シ。

尙集團檢診ニ於ケル活動性診斷、「ツ」及ビ赤沈等ノ應用ニ就テハ以下述ブル處アルベシ。

第 3 章 余等ノ得タル集團檢診ノ成績

第 1 項 集團檢診ニ於ケル結核患者檢出率

先ニ余ハ日本醫事新報昭和12年11月27日發

行第794號ニ於テ14集團9409名=就テ活動性肺結核ノ檢出率ヲ記載セシガ、之等ノ集團ノ中其後再ビ檢診セルモノ及其後多數ニ行ヒタル集團檢診ノ成績ヲ併セ述ベントス。但シ今回ノ成績中ニハ前回發表中奈良縣山村小學校、阪神間某中學校及兵庫縣某礦山ノ3集團=就テハ再録セリ。今回ノ成績ニ於テハ活動性肺結核、活動性淋巴腺結核及滲出性肋膜炎ヲ合シテ結核患者

トナセリ。ソノ成績ハ第1表ニ示セル如クニシテ集團ヲ分チテ(甲)全員「フィルム」撮影ヲナセル集團、(乙)一部「フィルム」撮影ヲナセル集團、其中少數ニハ普通「プロマイド」ヲ用ヒタルモノアリ。(丙)全員螢光像縮寫ヲナシ、陰影アル者ニハ「フィルム」又ハ寫眞紙撮影ヲナセル集團トナセリ。

集團檢診ニ於ケル結核患者檢出率

第1表 (甲) 全員「フィルム」撮影ヲナセル集團

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	職業	被檢 總人員	「ツ」 反應 率%	X線 像攝 影%	活動性結核			疑活動性結核			要注意結核感染者			備考
							總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	
大阪市I中學校	14-10	↑ 14-18	中學生	1,403	68.7	36	2.6	3.8	41	2.9	3.9	120	8.6	12.4		
大阪帝大醫學部學生	13-4	↑ 20-31	大學生	482	88.1	11	2.3	2.6	30	6.2	7.0	74	15.4	17.5		
„	14-5	↑ 20-31	„	478	87.2	7	1.5	1.7	22	4.6	5.3	52	10.9	12.5		
阪大病院新入看護婦	9-4 4-10	♀ 15-20	看護婦 生徒	577	45.2	3	0.5	1.1	2	0.3	0.7	3	0.5	1.1		
神戸市外某村全村民	14-7	↑♀ 1-82	村民	285	51.3	7	2.5	4.9	4	1.5	2.9	6	2.1	4.1		
計				3,225	61.7	64	2.0	3.2	99	3.1	5.0	255	7.9	12.8		

第1表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影ヲナセル集團

(註) 備考欄Fハ大「フィルム」撮影、Pハ大寫眞紙撮影ヲ示ス

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	職業	被檢 總人員	「ツ」 反應 率%	X線 像攝 影%	活動性結核			疑活動性結核			要注意結核感染者			備考
							總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	總人員 對スル %	「ツ」 陽性 者對 スル %	陽性 者ニ 對ス ル	
大阪市N小學校及幼稚園	12-10	↑♀ 7-13	學童 兒童	1,251	44.0	12.8	5	0.4	0.9	10	0.8	1.8	6	0.5	1.1	F
同上	13-10	„	„	996	37.0	6.1	4	0.4	1.1	5	0.5	1.1	9	0.9	2.4	P
同上	14-5	↑♀ 7-9	„	548	46.5	12.8	6	1.1	2.4	8	1.5	3.2	6	1.1	2.4	P
奈良縣某山村小學校	11-8	↑♀ 8-13	學童	1,330	14.2	15.3	3	0.2	1.4							F
和歌山市某小學校	13-10	„	„	969	26.1	11.4	7	0.7	2.7							F
大阪府下某養護學園	13-14-	„	„	408	55.3	11.5	6	1.5	2.7	1	0.2	0.4				F
神戸市高等小學校二年	14-7	↑♀ 14-15	高小 二年生	5,608	69.5	5.7	43	0.8	1.2	43	0.8	1.2	233	4.2	6.0	F
大阪府某中等學校	14-2	↑♀ 14-20	中學生	2,722	59.8	12.1	30	1.1	1.8	72	2.6	4.3	66	2.4	4.1	F

阪神間 某中學校	12-5	↑ 14-18	中學生	1,013	63.1	28.8	15	1.5	2.4	8	0.8	1.3	3	0.3	0.5	F
大阪 大青年學校	15-2	↑ 14-21	青年學生	1,006	63.3	7.9	3	0.3	0.5	9	0.9	1.4	37	3.7	5.8	F
大阪府下 大壯丁豫備檢診	13-8-11	↑ 19-20	壯丁	21,362	69.2	7.8	124	0.6	0.9	209	1.0	1.4	440	2.1	3.0	F
同上	14-8-11	↑ 19-28	”	21,219	67.2	4.7	372	1.8	2.7	128	0.6	0.9	173	0.8	1.2	F
某壯年團體	13-2	↑ 22	”	1,444	84.7	13.7	18	1.3	1.5							F
大阪府 小學校教員	13-7-11	↑♀ 21-65	教員	11,844	87.5	10.2	98	0.8	0.9	181	2.2	2.5				F
同上	14-7-11	”	教員 丁使	14,535	91.5	12.0	104	0.7	0.8	109	0.7	0.8	135	0.9	1.0	F
堺市某事務所	12-10	↑♀ 14-60	事務員	158		21.5	8	5.1		1	0.6					F
大阪市 I 會社	13-8	↑♀ 15-60	會社員	302	84.4	7.7	4	1.3	1.5	2	0.7	0.8	1	0.3	0.4	F
大阪市 S 商店	11-10	↑♀ 19-53	商店員	139	97.8	30.2	4	2.9	3.0							F
大阪府 F 工場	12-7-9	↑♀ 15-50	女工	3,345	60.6	2.3	10	0.3	0.5	19	0.6	0.9				F
兵庫縣某鑛山	11-6	↑ 20-60	鑛夫	503	61.2	37.8	4	0.8	1.3	5	1.0	1.6				F
開放性肺結核 患者周圍檢診	12-15-	↑♀ 2-52		707	92.2	19.1	97	13.7	14.9	65	9.2	10.0	176	24.9	27.0	F
計				91,409	71.9	8.7	965	1.1	1.5	875			1,285			

第 1 表 (丙) 全員螢光像縮寫ヲナシ一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影ヲナセル集團

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	職業	被檢 總人員	活動性結核			疑活動性結核			要注意結核感染者			備考	
					「ツ」 反陽性 率%	總人 員ニ 對ス ル%	陽 性者 ニ 對ス ル%	總人 員ニ 對ス ル%	「ツ」 陽 性者 ニ 對ス ル%	陽 性者 ニ 對ス ル%	總人 員ニ 對ス ル%	「ツ」 反 陽性 者 ニ 對ス ル%			
大阪 N 小學校	14-11	↑♀ 9-13	學童	655	55.7	6	0.9	1.6	22	3.4	6.1				
大阪 D 小學校及 家政女學校	14-12	↑♀ 8-17	學童 女學生	936	42.1	10	1.1	2.6	9	1.0	2.4	9	1.0	2.4	
大阪 大病院 從業員	14-11	↑♀ 15-60	看護婦 丁使	959	88.8	25	2.6	2.9	41	4.6	5.2				
大阪 T 紡織工場	14-10	♀ 13-60	女工	1,424	76.9	5	0.4	0.5	29	2.0	2.6	70	5.0	6.5	
阪神 K 工場	15-12	↑♀ 15-55	職工 事務員	5,719	82.8	74	1.3	1.6	67	1.2	1.4	434	7.6	9.0	「ツ」反陽性 ノミニ螢光 像縮寫ヲナ セリ
大阪市某 室內勞働者	15-3	↑♀ 15-55	事務員	2,515	82.7	59	2.3	2.8	41	1.6	1.9	79	3.1	3.7	
計				12,208	78.7	179	1.5	1.9	209	1.7	2.2	592			

(甲)ハ5集團計3,225名ニシテ「ツ」反陽性率ハ61.7%、活動性結核ハ64名、總人員ニ對シテ2.0%、「ツ」反陽性者ニ對シテ3.2%ナリ。疑活

動性トナセルハ99名ニシテ總人員ニ對シテ3.1%ニ當レリ。要注意結核感染者ハ255名ニシテ總人員ニ對シテ7.9%ナリ。活動性等ノ判斷ニ

ハX線像ニ重キヲ於ケル故ニ(甲)群ニ於ケル檢出率ハ(乙)群ニ比シ重シ。

(乙)一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影ヲナセル集團ハ21集團ニシテ、内1集團ハ3回、2集團ハ2回行ヒタルモ各回ヲ1集團トセリ。總人員91,409名、「ツ」反陽性率71.0%、X線撮影者ハ平均8.7%ニシテ、最モ少キハ2.3%、最モ多キハ37.8%ナリ。活動性結核ハ965名ニシテ總人員ニ對シ1.1%。「ツ」反陽性者ニ對シ1.5%ナリ。疑活動性結核ハ4集團一テハ特記セザリシガ他ノ17集團ニ於テ875名、1.0%ナリ。要注意結核感染者ハ12集團一テ1,825名、1.7%ナリキ。本群ニ於テハX線像ヲ得タル者ハ8.7%ニシテ而モ活動性診斷ハX線像ニヨリ確定セル故ニ活動性檢出率ハ低キ數字ヲ示セリ。

(丙)全員螢光像縮寫ヲナシ、陰影アル者ニ「フィルム」又ハ寫眞紙撮影ヲナセル集團ニテハ全員12,208名ニシテ「ツ」反陽性率ハ78.7%ナリ。檢出セル活動性結核ハ179名、全員ニ對シ1.5%、「ツ」反陽性者ニ對シ1.9%ナリ。疑活動性結核ハ209名ニシテ全員ニ對シ1.7%、「ツ」反陽性者ニ對シ2.1%ナリ。要注意結核感染者ハ4集團ニテ592名、全員ニ對シ5.6%ナリ。

即チ總被檢人員106,842名ニシテ、活動性結核ハ1,208名、即チ約1.1%ニ相當ス。而シテ疑活動性結核ハ活動性結核ノ1乃至2倍ナリ。要注意者ハ區々ナリ。「ツ」反陽性者ヨリノ活動性結核檢出率ハ第1表ニ掲ゲアル如ク大體ハ1—2%ニシテ總平均檢出率ハ1.6%ナリ。各集團ニヨリテ異ル理由ニ就テハ尙考フベキ點アリ。諸外國集團檢診ニ於ケル結核檢出率ニ就テハ既一カイザーペーテルセンガ *Ergeb ges. Tbk-fschng Band VIII*ニ詳述スル處ナリ。又米國ニ於テハ *Amer. Rev. Tbc*ノ1930年代誌上ニ多數ノ文獻掲ゲラル。本邦ニ於テモ諸家ニヨリテ報告セラル、處ナルガ星圭氏ハ東北醫學會雜誌第15卷第2號(1939年)ニ於テ多數ノ文獻ヲ紹介シ、諸外國及本邦ニ於ケル結核檢出率ノ表ヲ掲ゲタリ。

活動性ノ診斷

最モ重要ナル點ナルガ、主トシテX線像ニ重キヲ置クモ、全身症狀、理學的症狀、喀痰中結核菌ヲ參考トシ、又「ツ」反應及ビ赤沈ヲモ考慮ニ入レタリ。

X線像ノ讀ミ方ハX線「フィルム」ヲ得ル條件ニヨリテモ差異ヲ來スベク大ニ注意ヲ要スベキナリ。肺野及肺門部ニ於ケル陰影ガ活動性タルヤ否ヤハX線像ノミヨリテ定メ得ザル場合アリ。既ニ治癒セシト認ムベキカ或ハ長ク停止性ナル主纖維性或ハ主硬化性陰影ヲ活動性ト爲シ得ザルナリ。例ヘバ圓形浸潤ニテ小ナル物ハ結締織化シ活動性タラザルモ長クソノ陰影ヲ殘ス物アリ。又肋膜炎後ノ肋膜肥厚ヲ以テ肺ニ於ケル浸潤ノ陰影ト爲ス如キハ必ず避クベキ事ハ無論ナリ。要スルニX線像ノ讀ミ方ニ就テハ非常ニ慎重タルベキモノシテ之ノミニテ活動性ヲ決定シ得ザル場合アリ。斯ル場合ハ他ノ症狀ヲ參考トシ總合的診斷ヲ爲スモノナルガ、尙決定シ得ザル場合ハ疑活動性トシテ觀察シ再檢ヲ要スル場合アリ。嘗テ健康診斷ニ於ケルX線像ノ判斷ニ就テ田宮教授ガ注意ヲ喚起セシコトアリ。余等モ活動性ナラザルモノヲ活動性トシテ判斷セラレタル例ニ遭遇スル事アリ。治癒セシト認ムベキ病竈モブロイニングノ報告ノ如ク稀ニハ從來ソノ場所ヨリ活動性結核ヲ起ス事アリト雖モ、斯ル稀ナル例ハ集檢ニ於テハ度外視シテ可ナリ。

X線像ヨリシテ活動性ト爲セルモノハ種々ナル結核病竈ノ内、次表ニ定メタルモノヲ包含シ、且第3度、第2度、第1度ト大別セリ。

肺野ニ於ケル陰影ハ結核性炎衝、炎衝性結核、増殖性(肉芽性)結核、結締組織化、石灰化、無氣症、非結核性陰影(混合感染鬱血水腫其他)トナシ考フベキモノトシ之レニ肋膜及胸壁等ニヨル陰影ノ加ハルモノアル故ニ甚ダ複雑ナルガ次記ノ如キ種々相ニ分チテ觀察セリ。

疑活動性結核トナセルモノハ、肺野ニ小範圍ノ主纖維性病竈ヲ有シ且囉音ヲ聽取セズ又喀痰中

集團檢診ニ於ケル活動性結核X線像ノ種々相

胸 部 X 線 像		第 Ⅲ 度	第 Ⅱ 度	第 Ⅰ 度
肺門腺結核 肺内氣管枝淋巴 腺結核ヲ含ム	腫瘍狀ヲナス、氣管枝周圍陰影增強ヲ伴フモノ多シ、肺門陰影增強ス、全身症狀(+)赤沈促進、「ツ」反應陽性		大	小
肺門結核			大	小
肺尖結核	瀰蔓性、播種型、増殖型			第Ⅰ度
滲出型肺結核	瀰蔓性浸潤	結核性炎衝 炎衝性結核(乾酪性肺炎及氣管枝肺炎)	大小ニヨル	
	限局性浸潤	早期浸潤及其他 初感染肺病竈(疑活動性トセル者アリ)	大小ニヨル	
混合型肺結核	主滲出型 混合型 主増殖型	ニ分ツ	大(1葉以上)	中(1葉—半葉) 小(半葉以下)
硬變性肺結核	1葉以上ノ纖維性	空洞及大小ニヨル		
肺上葉炎	平等性、非平等性 超過性、他側擴大性	空洞及大小ニヨル		
播種型肺結核		第Ⅲ度	全肺、片肺	1葉程度
滲出性肋膜炎			肺結核合併ノ疑ヒアルモノ	肺結核合併ノ疑ヒ少キモノ

但、各項共空洞ノ有無、肺門腺腫脹合併ノ有無、肺尖結核合併ノ有無ヲ記載ス。

ニ結核菌ヲ證明セズ全身症狀多少アルトモ之ノミニテ活動性ト決定スルニハ不確實ナル者、肋膜ニ於テハ著明ナル肋膜肥厚ヲ有スル者或ハ最近ニ肋膜炎ニ罹患シ尙全身症狀ヲ多少有スル者、又肺門淋巴腺ニ於テハ陰影増加セル者及ヒ肺門部肺野ニ僅少ノ陰影殊ニ斑狀陰影ヲ伴フ者ニシテ全身症狀不確實ナル者ヲ包含セリ。但シ新シキ疾患ニシテ全身症狀著明ナラザルモ腫瘍狀ヲ呈スル者ハ活動性トナセル者アリ。尙「ツ」反應陽性轉化者ノ初感染症ト思ハル、者ノ内疑活動性ニ含メタル者アリ。(乙)群ニ於テハX線像ヲ見得ザルモノニシテ理學の所見全身症狀ヨリシテ疑活動性トナセル者アリ。此中一ハX線像ヲ見得レバ活動性トナシ得ル者アルベシ。要注意結核感染者トナセルモノハ、全身症狀殆ド缺除シ肺野ニ主纖維性小陰影アル者、又ハ比較的大ナル石灰或ハ多數ノ石灰沈著ヲ有スルモノ、肋膜肥厚アルモ全身症狀無キモノ、肺門陰影多少増加スルモ全身症狀ヲ有セザルモノ、結核患者ニ接近セシモノニシテツノ後1,2年ヲ經ザルモノ、及X線ニテハ陰影ト認ムベキモノ無

キモ多少ノ全身症狀アリ或ハ赤沈多少促進セルモノ等ナリ。

各集團ニ於テハ大體ニ於テ以上ノ方針ニ依リ活動性、疑活動性、要注意者ヲ決定セリ。尙胸部以外ノ結核ヲ經過セルモノニシテ肺結核等ヲ有セザルモノモ疑活動性群ニ編入セリ。又2,3集團ニ於テハ活動性ト認ムベキモノモ止ムヲ得ズ疑活動性トシテ取扱ヘルモノアリ。余等ハ個人檢診ニ於テモ多數ノ疑活動性結核ヲ初診ニ於テ見ル處ナル故ニ集檢ニ於テモ疑活動性ノ判定及ビ其ノ處置ニハ尙大ニ考慮ヲ要スベシ。

第2項 集團檢診ニテ檢出セル活動性結核ノX線像

第2表ヲ(甲)(乙)(丙)表ニ分チ、マタ各集團ニ就イテ成績ヲ表示セリ。余等ガ檢診セル集團ハ所謂健康者ニシテ普通或ハ作業セルモノノ大多數ナルモ、アル集團ニテハ既ニ治療ヲ受ケツ、アル患者ニシテ檢診ノ際出席セルモノ等モ少數アリ、カ、ル集團ニ於テハ第Ⅲ度ト認ムベキモノモ比較的多ク見出セリ。

尙各集團別ニ活動性結核ヲ病型別ニ觀察シタル

ニ年齢ニヨル差異ノ他ニハ特記スベキ事項無キ 更ニ記述ヲ要スベキモ各集團ニ關スル詳細ナル
 モ今後尙多數ニ就キ行ヒ、或ハ其ノ推移ニヨリ 既及未發表ノ報告ニ譲リ今ハ之ヲ省略ス。

第2表 集團檢診ニテ檢出セル肺結核ノX線像

(甲1) 全員「フィルム」撮影 (5集團)被檢總人員3,225名 活動性結核62名(1.9%)

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺 門 腺 結 核		1 (1.6%)	1 (1.6%)	43	147
肺 門 結 核		3 (4.8%)	1 (1.6%)		
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
肺 尖 結 核		1 (1.6%)	5 (8.1%)	21	25
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	3		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
早 期 浸 潤		6 (9.7%)	2 (3.2%)		9
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		6	2		
肺尖結核ヲ伴フモノ		6	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
混 合 型 肺 結 核	8 (12.9%)	10 (16.1%)	12 (19.4%)	35	53
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	7	9	11		
肺尖結核ヲ伴フモノ	7	9	9		
空洞ヲ有スルモノ	3	3	1		
肺 上 葉 炎	1 (1.6%)	2 (3.2%)			
超過性	1	1			
兩側擴大性	0	0			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1	2			
肺尖結核ヲ伴フモノ	0	0			
空洞ヲ有スルモノ	1	1			
播 種 型 肺 結 核	3(4.8%)				
空洞ヲ有スルモノ					
滲 出 性 肋 膜 炎		2 (3.2%)	4 (6.5%)		21
計	12 (19.4%)	25 (40.3%)	25 (40.3%)	99	255
		62(100%)			

全員「フィルム」撮影ヲナセルモノ、即チ第2表
 (甲1)ニヨリテ見ルモ、活動性結核62名中第3
 度ハ12名、即チ19.4%ヲ算セリ。

以下各集團ニ就テ活動性結核ノX線像ヲ分類セリ。

第2表(甲2) 大阪市I中學校ハ大阪市内ニア

リ、最近結核性疾患ノ發病比較の多ク、著シキハ
 5人ノ同級生「グループ」ニ於テ先ヅ1名ガ肺結
 核ニテ死亡、更ニ残り4名モ次々ニ肺結核ヲ發
 病シ、1名ハ退學シ、2名ハ療養シツ、通學シ、
 最後ニ發病セル1名ハ現在尙入院中ナルガ如キ
 例アリ。斯ル状態ニ鑑ミ父兄有志ヨリ「フ

第 2 表 (甲 2) 大阪市 I 中學校 (全員「フィルム」) 昭 14.

被檢總人員 1,403 名 活動性結核 36 名 (2.1%)

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 腺 結 核		1 (2.8%)	1 (2.8%)	22	76
肺 門 結 核		3 (8.3%)	1 (2.8%)		
肺尖腫脹ヲ伴フモノ		2	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
肺 尖 結 核		1 (2.8%)	3 (8.3%)	5	3
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	2	4	
空洞ヲ有スルモノ		0	0	0	
早 期 浸 潤		4 (11.1%)	2 (5.6%)		1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2	2		
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
混 合 型 肺 結 核	6 (16.7%)	4 (11.1%)		14	19
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	5	4		8	
肺尖結核ヲ伴フモノ	5	4		4	
空洞ヲ有スルモノ	2	0		0	
肺 上 葉 炎	1 (2.8%)	2 (5.6%)			
超過性	1	1			
兩側擴大性	0	0			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1	2			
肺尖結核ヲ伴フモノ	0	0			
空洞ヲ有スルモノ	1	1			
播 種 型 肺 結 核	2 (5.6%)				
空洞ヲ有スルモノ	1				
滲 出 性 肋 膜 炎		2 (5.6%)	3 (8.3%)		21
計	9 (25.0%)	17 (47.2%)	10 (27.8%)	41	120
		36 (100%)			

第 2 表 (甲 3) 大阪帝大醫學部學生 (全員「フィルム」) 昭 13.

被檢總人員 482 名 活動性結核 11 名 (2.3%)

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 腺 結 核				13	44
肺 門 結 核					
肺 尖 結 核			1	5	13
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1		
空洞ヲ有スルモノ			0		
早 期 浸 潤		2			4
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2			
肺尖結核ヲ伴フモノ		2			
空洞ヲ有スルモノ		0			
混 合 型 肺 結 核		2	6	12	13

肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2	6		
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	6		
空洞ヲ有スルモノ		2	1		
計		4	7	30	74
		11			

第2表 (甲4) 大阪帝大醫學部學生(全員「フィルム」) 昭14.

被檢總人員 478名 活動性結核 7名(1.5%)

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺門腺結核				6	21
肺尖結核				8	9
早期浸潤					2
混合型肺結核		3	3	8	20
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		3	3		
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	3		
空洞ヲ有スルモノ		1	0		
播種型肺結核	1				
計	1	3	3	22	52
		7			

第2表 (甲5) 阪大病院新入看護婦(全員「フィルム」) 昭12—15.

被檢總人員 577名 活動性結核 3名(0.5%)

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺尖結核			1	2	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			0		
空洞ヲ有スルモノ			0		
早期浸潤					2
混合型肺結核			1		1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1		
肺尖結核ヲ伴フモノ			0		
空洞ヲ有スルモノ			0		
滲出性肋膜炎			1		
計			3	2	3

フィルム」ノ寄附ニ依リテ集檢ヲ行ヒタルモノナリ。本中學ニ於テハ第Ⅲ度ガ比較的多キハ中學生ノ如キハ自覺症狀アルモ尙醫療ヲ受ケズ其中主滲出型肺結核ト認ムベキモノアリテモ尙通學セル者アルニヨルモノト考ヘラル。

第3表(甲3, 4, 5) 大阪帝大醫學部學生ニ就テハ昭和13年度受檢セルモノト昭和14年度ニ受檢セルモノトニ重複アルハ勿論ナレド、昭和13

年度ニ於テ活動性結核ト決定シ引キ續キ療養中ナル者ハ昭和14年度ニ於テハ除外セリ。尙注意スベキハ入學或ハ入所ノ際嚴重ナル身體檢査ニ合格シタル後更ニ集檢ヲ爲セル看護婦生徒ニ於テハ第Ⅰ度ノミーシテ、阪大醫學部學生ニ於テハ第Ⅲ度無キ事ナリ。

第2表(甲6) 神戸市外某村全村民ニテハ既ニ自覺シ治療ヲ受ケ居ル者ヲモ含ミ居レリ。尙本

第 2 表 (甲 6) 神戸市外某村全村民(全員「フィルム」) 昭 14,
被檢總人員 285 名 活動性結核 7 名(2.5%)

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核	要法意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 腺 結 核				2	6
肺 尖 結 核				1	
混 合 型 肺 結 核	2	1	2	1	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	2	0	1		
肺尖結核ヲ伴フモノ	2	1	0		
空洞ヲ有スルモノ	1	0	0		
計	2	1	2	4	6
		5			

表ノ外ニ病症重篤ニテX線檢査ヲ受ケ得ザリシ肺結核患者 2 名ナリ。

第 2 表(乙 1) ハ一部「フィルム」撮影ヲナセルモノニシテ、16 集團、被檢總人員 87119 名中活動性結核ハ 918 名、即チ 1.0% ニシテ、第 I 度ハ

374 名、第 II 度ハ 372 名、第 III 度ハ 172 名ニシテ全活動性結核中、夫々 40.7%、40.5%、18.7%ヲ占ム。疑活動性結核ハ 524 名、要注意者ハ 999 名ナリ。

以下各集團ニ就キ成績ヲ表示ス。

第 2 表 (乙 1) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影 (16 集團)
被檢總人員 87,119 名 活動性結核 918 名(1.0%) X線像撮影率: 8.7%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 腺 結 核		36 (3.7%)	73 (8.0%)	282	697
肺 門 結 核		31 (3.4%)	22 (2.4%)	12	
肺 尖 結 核		17 (1.7%)	31 (3.4%)	66	15
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		5	13	22	
空洞ヲ有スルモノ		0	1	0	
Epituberkulose			1 (0.1%)		
早期浸潤		16 (1.8%)	16 (1.8%)		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		9	13		
肺尖結核ヲ伴フモノ		7	0		
空洞ヲ有スルモノ		4	3		
混 合 型 肺 結 核	132(14.4%)	241(26.3%)	151(16.4%)	145	130
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	88	197	96	97	
肺尖結核ヲ伴フモノ	74	160	42	20	
空洞ヲ有スルモノ	66	59	8	0	
硬 變 性 肺 結 核	3 (0.3%)	7 (0.8%)			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	3	5			
肺尖結核ヲ伴フモノ	3	3			
空洞ヲ有スルモノ	3	5			
肺 上 葉 炎	18 (2.0%)	18 (2.0%)			
超過性	8	2			
兩側擴大性	6	0			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	15	13			

肺尖結核ヲ伴フモノ	13	10		
空洞ヲ有スルモノ	12	5		
播種型肺結核	19 (2.1%)	15 (1.6%)		
空洞ヲ有スルモノ	4	2		
滲出性肋膜炎		6 (0.6%)	80 (8.8%)	19
計	172 (18.7%)	372 (40.5%)	374 (40.7%)	524
		918 (100%)		999

第2表 (乙2) 大阪市N小學校及幼稚園 昭12. 13. 14.
被檢總人員 2,795 名 活動性結核 15 名 (0.5%) X線像撮影率 10.4%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
肺門腺結核			3	23
腫瘍狀ヲナセルモノ			2	6
肺門結核		2	7	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		0	0	
空洞ヲ有スルモノ		0	0	
肺尖結核			1	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1	
空洞ヲ有スルモノ			0	
Epituberculose			1	
混合型肺結核		1		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1		
肺尖結核ヲ伴フモノ		0		
・空洞ヲ有スルモノ		0		
計		3	12	23
		15		

大阪市A小學校及幼稚園ト學校當局者ノ非常ナル熱意ニ依リ、昭和12年以來施行シ來レルモノニシテ既ニ3ケ年間連續毎年1回宛ノ集檢ヲ行ヘリ。小學生ノ如ク胸壁厚カラザル者ニ於テハX線像撮影ニ際シ露光時間短クシテ十分ナル故ニ、「プロマイド」ニ依ルモ相當鮮明ナル像ヲ得

ルヲ以テ、當集團ニ於テ昭和13年度及昭和14年度ハ「プロマイド」大撮影ヲ爲セリ。斯クノ如ク小學生ニ行フ集檢ニ於テハ經費ノ關係ヨリ「プロマイド」ノ使用ヲヨリ多ク考フベキナリ。當小學生及幼稚園兒中ヨリ檢出セル活動性結核ハ肺門腺結核及肺門結核ガ其ノ大部分ヲ占ム。

第2表 (乙3) 神戸市高等小學校2年 昭14.
被檢總人員 5,608 名 活動性結核 43 名 (0.8%) X線像撮影率 5.7%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺門腺結核		2 (4.7%)	6 (14.0%)	32	100
肺門結核		6 (14.0%)	3 (7.0%)		
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	1		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
肺尖結核			1 (2.3%)	3	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1	2	

空洞ヲ有スルモノ			0	0	
早期浸潤		3 (7.0%)	1 (2.3%)		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2	1		
肺尖結核ヲ伴フモノ		1	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
混合型肺結核	9(20.9%)	5(11.6%)	1(12.3%)	8	7
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	9	3	1	6	
肺尖結核ヲ伴フモノ	5	3	0	4	
空洞ヲ有スルモノ	2	0	0	0	
肺上葉炎	1 (2.3%)	1 (2.3%)			
超過性	0	0			
兩側擴大性	0	0			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1	1			
肺結核ヲ伴フモノ	0	0			
空洞ヲ有スルモノ	1	0			
播種型肺結核	2 (4.7%)				
空洞ヲ有スルモノ	1				
滲出性肋膜炎			2 (4.7%)		15
計	12(27.9%)	17(39.5%)	14(32.6%)	43	122
		43(100%)			

第2表(乙3) 神戸市高等小學校2年生ニ就テノ集檢ハ、厚生省神戸職業紹介所トノ協力ニ依リ行ヒタルモノニシテ、其成績ニ就テハ既ニ發表セリ。(山本、池田、宮西、中央醫學、第9卷、第1號、昭15)

集檢ハ、大阪府體力課ト協力施行セルモノニシテ、X線撮影ハ凡テ「ポータブル」裝置ニ依レリ。本集檢ノ成績ニ就テハ既ニ報告セリ。(池田、有馬、坂本、山本、中央醫學、第9卷、第1號、昭15)

第2表(乙4) 大阪府中等學校ニ就キ行ヒタル

第2表 (乙4) 大阪府五中等學校 昭14.

被檢總人員2,722名 活動性結核30名(1.1%) X線像撮影率12.1%

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	III	II	I		
肺門腺結核			3(10.0%)	39	58
肺門結核		2(6.7%)	1(3.3%)	6	
肺尖結核ヲ伴フモノ		1	0	4	
空洞ヲ有スルモノ		0	0	0	
肺尖結核		1(3.3%)	3(10.0%)		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	2		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
早期浸潤		1(3.3%)	2(6.7%)		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	2		
肺門結核ヲ伴フモノ		0	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
混合型肺結核	4(13.3%)	6(20.0%)	1(3.3%)	24	6
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	4	4	1	16	

肺尖結核ヲ伴フモノ	3	2	0	4	
空洞ヲ有スルモノ	2	0	0	0	
肺 上 葉 炎	1 (3.3%)				
超過性	0				
兩側擴大性	0				
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1				
肺尖結核ヲ伴フモノ	0				
空洞ヲ有スルモノ	0				
滲 出 性 肋 膜 炎		1 (3.3%)	3 (10.0%)	3	2
計	5 (16.7%)	12 (40.0%)	13 (43.3%)	72	66
		30 (111%)			

第2表 (乙5) 大阪市青年學校 昭15.

被檢總人員 1,006 名 活動性結核 3 名 (0.3%) X線撮影率 7.9%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
肺 門 腺 結 核		1		4
腫瘍狀ヲナスモノ		1		
肺 門 結 核				5
混 合 型 肺 結 核		2		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2		
肺尖結核ヲ伴フモノ		1		
空洞ヲ有スルモノ		1		
計		3		9
		3		

第2表(乙5) 大阪市青年學校ニ就テノ集檢ハ
大阪市教育部トノ協力ノ許ニ行ヒタルモノニシ
テ活動性結核ノ檢出率甚ダ低キハ缺席者多ク、

多少ノ自覺症狀ヲ有シ、又ハ結核性疾患ノ疑テ
多少共有スル者ハ受檢セザリシ傾向アル事實ニ
因ルモノト考ヘラル。

第2表 (乙6) 大阪府下壯丁豫備檢診 昭13.

被檢總人員 21,362 名 活動性結核 124 名 (0.6%) X線撮影又ハ透視率 7.8%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺 門 腺 結 核		4 (3.2%)	8 (6.5%)	86	280
肺 門 結 核		5 (4.0%)	5 (4.0%)		
肺尖結核ヲ伴フモノ		4	1		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
肺 尖 結 核			1 (0.8%)	34	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1	20	
空洞ヲ伴フモノ			0	0	
早 期 浸 潤		3 (2.4%)	2 (1.6%)		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2	2		
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
混 合 型 肺 結 核	12 (9.7%)	30 (24.2%)	15 (12.1%)	80	100

肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	11	22	11	66	
肺尖結核ヲ伴フモノ	5	8	6	10	
空洞ヲ有スルモノ	6	4	0	0	
硬變性肺結核	1 (0.8%)	2 (1.6%)			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1	2			
肺尖結核ヲ伴フモノ	1	1			
空洞ヲ有スルモノ	1	2			
肺 上 葉 炎	3 (2.4%)	5 (4.0%)			
超過性	2	2			
兩側擴大性	1	0			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	2	3			
肺尖結核ヲ伴フモノ	0	0			
空洞ヲ有スルモノ	1	1			
播種型肺結核	2 (1.6%)	2 (1.6%)			
空洞ヲ有スルモノ	1	1			
滲出性肋膜炎		5 (4.0%)	19 (15.3%)	9	60
計	18 (14.5%)	56 (45.2%)	50 (40.3%)	209	440
		124 (100%)			

第 2 表 (乙 6) 大阪府下壯丁豫備檢診ハ大阪府衛生課トノ協力ノモト、大阪市ヲ除ク全大阪府下壯丁ニ就キ施行セシモノシテ、昭和 13 年度ノ本集檢ノミハ先ヅ透視ニヨリ多少ノ陰影ヲ

認メタルモノノミニ「フィルム」撮影ヲ行ヒタリ。尙本集檢ノ成績ハ既ニ發表セリ。(貴島、鶴崎、山本、池内、日本公衆保健協會雜誌、昭 14 年 8 月)

第 2 表 (乙 7) 大阪府下壯丁豫備檢診 昭 14.

被檢總人員 21,219 名 活動性結核 372 名 (1.8%) X 線像撮影率 4.7%.

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺 門 腺 結 核		19 (5.1%)	26 (7.0%)	68	107
肺 門 結 核		7 (1.9%)	1 (0.3%)	1	
肺 尖 結 核		6 (1.6%)	12 (3.3%)		1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		3	7		
空洞ヲ有スルモノ		0	1		
早 期 浸 潤		1 (0.3%)	7 (1.9%)		3
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	6		
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	0		
空洞ヲ有スルモノ		1	2		
混 合 型 肺 結 核	57 (15.3%)	79 (21.2%)	99 (26.6%)	32	17
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	23	67	65	7	
肺尖結核ヲ伴フモノ	24	60	21	1	
空洞ヲ有スルモノ	30	30	6	0	
硬變性肺結核					1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ					
肺尖結核ヲ伴フモノ					
空洞ヲ有スルモノ					
肺 上 葉 炎	4 (1.1%)	3 (0.8%)			

超過性	1	0		
兩側性擴大性	1	0		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	3	3		
肺尖結核ヲ伴フモノ	4	3		
空洞ヲ有スルモノ	1	0		
播種型肺結核	8 (2.2%)	11 (3.0%)	3 (0.8%)	
空洞ヲ有スルモノ	2	1	0	
滲出性肋膜炎			29 (7.9%)	71
計	69 (18.7%)	126 (34.1%)	177 (47.2%)	200
		372 (100%)		

第2表 (乙8) 大阪府小學教員 昭13.

被檢總人員 11,844名 活動性結核 98名(0.8%) X線撮影率 10.2%

X線像	活動性結核		
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
肺門結核		1 (1.0%)	
肺尖結核ヲ伴フモノ		1	
空洞ヲ有スルモノ		0	
肺尖結核			1 (1.0%)
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1
空洞ヲ有スルモノ			0
早期浸潤		2 (2.1%)	1 (1.0%)
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2	1
肺尖結核ヲ伴フモノ		2	0
空洞ヲ有スルモノ		0	1
混合型肺結核	26 (27.0%)	15 (45.9%)	5 (5.1%)
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	26	40	5
肺尖結核ヲ伴フモノ	24	41	3
空洞ヲ有スルモノ	17	14	2
硬變性肺結核	2 (2.1%)	2 (2.1%)	
肺門腫脹ヲ伴フモノ	2	2	
肺尖結核ヲ伴フモノ	2	1	
空洞ヲ有スルモノ	2	2	
肺上葉炎	5 (5.2%)	4 (4.2%)	
超過性	3	0	
兩側擴大性	2	0	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	4	3	
肺尖結核ヲ伴フモノ	5	4	
空洞ヲ有スルモノ	5	3	
播種型肺結核	2 (2.1%)		
滲出性肋膜炎			2 (2.1%)
計	35 (35.7%)	54 (55.1%)	9 (9.2%)
		98 (100%)	

第2表(乙7) 昭和14年度ニ於ケル活動性結核患者檢出率ハ昭和13年度ニ比シ著シク高率

ナルハ、X線像ガ昭和14年度ニ於テハ昭和13年度ニ於ケル如ク最初ノ透視ニヨル選擇ヲ行ハ

ズ凡テ撮影ニ依リタル事ニ因ルモノト考ヘ得。
尙兩年度共X線撮影ハ凡テ「ポータブル」装置ニ
依レリ。

體力課トノ協力ノモトニ施行セルモノニシテ、
昭和13年度ニ於テハ第Ⅲ度ニ活動性結核甚ダ多
キハ注目スベキ事實ナリ。

第2表(乙8) 大阪府小學教員ノ集檢ハ大阪府

第2表(乙9) 大阪府小學教員 昭14.

被檢總人員 14,535 名 活動性結核 104 名(0.7%) X線撮影率 12.0%

X 線 像	活 動 性 結 核		
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
肺門淋巴腺結核			5 (4.8%)
肺尖結核ヲ伴フモノ			1
肺 門 結 核		4 (3.8%)	2 (1.9%)
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	0
空洞ヲ有スルモノ		0	0
肺 尖 結 核			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			
空洞ヲ有スルモノ			
早 期 浸 潤		3 (2.9%)	1 (1.0%)
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		0	0
肺尖結核ヲ伴フモノ		3	0
空洞ヲ有スルモノ		3	0
混 合 型 肺 結 核	9 (8.7%)	49(47.1%)	15(14.4%)
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	8	46	11
肺尖結核ヲ伴フモノ	8	38	9
空洞ヲ有スルモノ	4	7	0
硬 變 性 肺 結 核		2 (1.9%)	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	
肺尖結核ヲ伴フモノ		1	
空洞ヲ有スルモノ		1	
肺 上 葉 炎	4 (3.8%)	3 (2.9%)	
超過性	2	0	
兩側擴大性	2	0	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	4	3	
肺尖結核ヲ伴フモノ	4	3	
空洞ヲ有スルモノ	4	1	
播 種 型 肺 結 核	3 (2.9%)	2 (1.9%)	
滲 出 性 肋 膈 炎			2 (1.9%)
計	16 (15.4%)	63 (60.6%)	25 (24.0%)
		104 (100%)	

第2表(乙9) 昭和14年度ニ於テハ昭和13年
度ニ比シ第Ⅲ度ハ甚ダ減少セルヲ認ム。又昭和
14年度ニ於ケル檢出率ハ新任者及前年度受験
セザル者ニ甚ダ高率ニシテ前年度受験シ異常ヲ
認メザリシ者ヨリノ檢出率ノ約3倍ヲ示セリ。

之ヨリ觀ルニ今後教員ノ集檢ヲ徹底ニ行フ爲
ニハ、師範在學中或ハ卒業後採用時ニ行フ必要
アリト認ム。尙本集團ニ於テモ兩年度共X線
撮影ハ「ポータブル」装置ニヨレリ。

第2表 乙10 堺市某事務所 昭12.

被檢總人員 158名 活動性結核 8名(5.1%) X線撮影率 21.5%

X線像	活動性結核		
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
肺尖結核		2	1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		0	0
空洞ヲ有スルモノ		0	0
混合型肺結核	5		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	3		
肺尖結核ヲ伴フモノ	3		
空洞ヲ有スルモノ	3		
計	5	2	1
		8	

第2表(乙10) 堺市某事務所ニ就テノ集檢ハ大阪府堺健康相談所等ニテ行ヒタルモノシテ、檢出セル開放性肺結核患者ノ殆ド大多數ハ勤務ヲ續ケタルガ特ニ他ノ傳染ハ嚴重ニ注意セシメツ、事務所ノ都合ニヨリ止ムヲ得ズ事務ニ従事セシメタルモノナリ。而シテ第Ⅲ度ト認ムベキ者ニシテ比較的死ノ直前迄勤務ヲ續ケタル者2例アリ、内1例ハ執務中大咯血ヲ爲シ1兩日後死亡セリ。本集檢ニ就キテハ既ニ其成績ヲ

報告セリ。(藤井、遠藤、診斷ト治療、第25卷、第7號、昭13)

第2表(乙11) 大阪市I會社ハ大阪市内某「ビルディング」内一アリ、ソノ事務員ニ就キ行ヒタルモノナルガ、第1度ノミ4名ヲ檢出シ得タリ。此會社ハ非常ニ繁忙ナル故ニ多少ノ疾患アル者ハ執務ニ耐エザルタメ輕症ノミヲ檢出セリト考ヘラル。

第2表 乙11 大阪市I會社 昭14.

被檢總人員 302名 活動性結核 4名(1.3%) X線撮影率 7.7%

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺門腺結核			1	1	
肺尖結核					1
早期浸潤			1		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1		
肺尖結核ヲ伴フモノ			0		
空洞ヲ有スルモノ			0		
混合型肺結核			2	1	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1	0	
肺尖結核ヲ伴フモノ			1	1	
空洞ヲ有スルモノ			0	0	
計		4	4	2	1

第2表(乙12) 大阪府F工場ニ於ケル集檢ハソノX線撮影率小ニシテX線像無キモノハ活動性ト認メラザル者多キ故ニ檢出率低キモノト考

ヘラル、尙多數ニ就キX線撮影ヲ行ヒ活動性ヲ確定スレバヨリ多數ノ活動性結核ヲ檢出シ得タルモノト考ヘラル。

第 2 表 (乙 12) 大阪府 F 工場 昭 13.
被檢總人員 3,345 名 活動性結核 10 名(0.3%、X線撮影率 2.3%)

X 線 像	活 動 性 結 核		
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
肺 門 結 核		1	
早 期 浸 潤		1	
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1	
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	
空洞ヲ有スルモノ		0	
混 合 型 肺 結 核	4	1	
肺門腺結核ヲ伴フモノ	3	1	
肺尖結核ヲ伴フモノ	0	0	
空洞ヲ有スルモノ	1	0	
播 種 型 肺 結 核	1		
滲 出 性 肋 膜 炎			2
計	5	3	2
		10	

第 2 表 (乙 13) 開放性結核患者周圍檢診 昭 12-15.
被檢總人員 707 名 活動性結核 97 名(13.7%) X線撮影率 19.1%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺 門 腺 結 核	9 (9.3%)	15 (15.5%)		29	152
肺 門 結 核	2 (2.1%)	3 (3.1%)			
肺 尖 結 核	7 (7.2%)	11 (11.3%)		29	13
早 期 浸 潤	2 (2.1%)	1 (1.0%)			2
混 合 型 肺 結 核	5 (5.2%)	14 (14.1%)	15 (15.5%)		
硬 變 性 肺 結 核	1 (1.0%)				
肺 上 葉 炎	2 (2.1%)				
播 種 型 肺 結 核	1 (1.0%)				
滲 出 性 肋 膜 炎			9 (9.3%)	7	9
計	6 (6.2%)	37 (38.0%)	54 (55.7%)	65	176
		97 (100%)			

第 2 表 (乙 13) 開放性肺結核患者周圍檢診ハ最モ檢出率高キ例ナリ。本調査ノ對象ハ貧困家庭ニシテ既ニ自覺症ヲ有セル者多キモ大部分ハ療養シ居ラザルモノナリ。本檢診ノ一部成績ハ既ニ報告セリ。(藤井明、新興醫學、第 2 卷、第 6 號、昭 14)

第 2 表 (丙 1) 全員螢光像縮寫ヲ爲セル集團ノ總括ニシテ、4 集團、被檢總人員 9,825 名中、活動性結核ハ 125 名、即チ約 1.3%ニ當リ、内第 1 度ハ 38 名(29.5%)、第 2 度ハ 63 名(48.8%)、

第 3 度ハ 28 名(21.7%)ナリ、疑活動性結核ハ 110 名、要注意者ハ 121 名ナリ。第 2 表 (丙 2) (丙 5) ハ各集團ニ就キ病型別ヲ表示セリ。第 2 表 (丙 2 及 2) 大阪市 N 小學校(昭和 14 年度上級學年)及大阪市 D 小學校及家政女學校ニ於テハ全員ニ螢光像縮寫ヲ爲シ縮寫像ニテ陰影アル者ハ大「フイルム」ニヨリ再撮影ヲ爲セリ。阪神間 K 工場ニ於テハ「ウ」反陽性者即チ 4,725 名(82.8%)ノミニ螢光像縮寫ヲ行ヒタリ。尚螢光像縮寫像ニテ陰影ヲ認メザルモノ、大撮影ヲ受

第2表(丙1) 全員螢光像縮寫 4集團。
被檢總人員 9,825名 活動性結核 129名(1.3%)

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺門腺結核		9 (7.0%)	7 (5.4%)	65	88
肺門結核		4 (3.1%)	4 (3.1%)		
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	0		
空洞ヲ有スルモノ		0	0		
肺尖結核		8 (6.2%)	6 (4.7%)	14	4
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		7	5		
空洞ヲ有スルモノ		1	0		
Epituberkulose			1 (0.8%)		
早期浸潤		11 (8.5%)	7 (5.4%)	1	8
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		8	6		
肺尖結核ヲ伴フモノ		6	1		
空洞ヲ有スルモノ		5	0		
混合型肺結核	21 (16.3%)	29 (22.5%)	11 (8.5%)	30	5
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	20	25	10		
肺尖結核ヲ伴フモノ	20	26	4		
空洞ヲ有スルモノ	13	8	1		
硬變性肺結核		1 (0.8%)			
肺上葉炎	1 (0.8%)	1 (0.8%)			
超過性	0	0			
兩側擴大性	0	0			
肺門腫脹ヲ伴フモノ	1	1			
肺尖結核ヲ伴フモノ	1	0			
空洞ヲ有スルモノ	1	0			
播種型肺結核	5 (3.9%)	1 (0.8%)			
滲出性肋膜炎			2 (1.6%)		16
計	27 (20.9%)	64 (49.6%)	38 (29.5%)	110	121
		126 (100%)			

第2表(丙2) 大阪市N小學校 昭14。
被檢總人員 655名 活動性結核 6名(0.9%) 大撮影率 6.4%

X線像	活動性結核			疑活動性結核
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
肺門腺結核			1	21
腫瘍狀ヲ伴フモノ			1	15
肺門結核		1	1	
肺尖結核ヲ伴フモノ		0	0	
空洞ヲ有スルモノ		0	0	
Epituberkulose			1	
混合型肺結核		2		1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2		1
肺尖結核ヲ伴フモノ		2		0
空洞ヲ有スルモノ		0		0
計		3	3	22
		6		

第 2 表 (丙 3) 大阪市 D 小學校及家政女學校 昭 14.
被檢總人員 936 名 活動性結核 10 名 (1.1%) 大撮影率 8.3%

X 線 像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 腺 結 核		2	4	9	8
腫瘍状ヲナスモノ		2	1	2	
肺 門 結 核		1			
肺 尖 結 核			1		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			1		
空洞ヲ有スルモノ			0		
混 合 型 肺 結 核			2		
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ			2		
肺尖結核ヲ伴フモノ			1		
空洞ヲ有スルモノ			1		
滲 出 性 肋 膜 炎					1
計		3	7	9	9
		10			

第 2 表 (丙 4) 阪神間 K 工場 昭 15.
被檢總人員 5,719 名 活動性結核 74 名 (1.3%) 大撮影率 4.8% 「ツ」反陽 4,725 名

大「フィルム」像	活 動 性 結 核			疑活動性 結 核	要注意結 核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	I		
肺 門 淋 巴 腺 結 核		1 (1.9%)	2 (3.7%)	17	16
肺 門 結 核		2 (3.7%)	2 (3.7%)		
肺 尖 結 核		1 (1.9%)		2	3
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1			
空洞ヲ有スルモノ		0			
早 期 浸 潤		3 (5.6%)		1	4
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		2		1	
肺尖結核ヲ伴フモノ		2		0	
空洞ヲ有スルモノ		2		0	
混 合 型 肺 結 核	13 (24.1%)	17 (31.5%)	6 (11.1%)	18	3
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	13	16	5	16	
肺尖結核ヲ伴フモノ	13	15	2	10	
空洞ヲ有スルモノ	7	4	0	0	
硬 變 性 肺 結 核		1 (1.9%)			
肺 上 葉 炎	1 (1.9%)				
超過性	0				
兩側擴大性	0				
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	1				
肺尖結核ヲ伴フモノ	1				
空洞ヲ有スルモノ	1				
播 種 型 肺 結 核	4 (7.4%)				7
滲 出 性 肋 膜 炎			1 (1.9%)		
計	18 (33.3%)	25 (46.3%)	11 (20.4%)	38	33
		54 (100%)			

螢光像縮少寫眞像	活動性結核	疑活動性結核
肺野=廣範圍ノ陰影アルモノ	4	
中等度ノ陰影アルモノ	4	
狹範圍ノ陰影アルモノ	6	14
肺門部陰影増強スルモノ	2	8
肺尖部ニ陰影アルモノ	1	6
肋膜炎陰影アルモノ	3	1
計	20	29

第2表(丙5) 大阪市某室内労働者 昭15.

被檢總人員 2,515名 活動性結核 59名(2.3%) 大撮影率 9.0%

X線像	活動性結核			疑活動性結核	要注意結核感染者
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		
肺門腺結核		6 (10.5%)		18	64
肺門結核			1 (1.8%)		
肺尖結核		7 (12.3%)	5 (8.8%)	12	1
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		6	4	8	1
空洞ヲ有スルモノ		1	0	0	0
早期浸潤		8 (14.1%)	7 (12.3%)		4
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		6	6		2
肺尖結核ヲ伴フモノ		4	4		0
空洞ヲ有スルモノ		3	0		0
混合型肺結核	8 (13.6%)	10 (17.0%)	3 (5.1%)	11	2
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ	7	7	3	6	
肺尖結核ヲ伴フモノ	7	9	1	4	
空洞ヲ有スルモノ	6	4	0	0	
肺上葉炎		1 (1.8%)			
肺門腺腫脹ヲ伴フモノ		1			
播種型肺結核	1 (1.8%)	1 (1.8%)			
滲出性肋膜炎			1 (1.8%)		8
計	9 (15.3%)	33 (55.9%)	17 (28.8%)	41	79
		59 (100%)			

ケ得ザリシ者ノ内20名ハ、縮寫像ノミニヨリ活動性結核ト決定セリ。尙本集團ニ於テハ大撮影ハ約3分2ノ「フィルム」約3分ノ1ハ「プロマイド」ヲ使用セリ。

第2表(丙5) 大阪市某室内労働者ニ於テハ全員ニ螢光像縮寫ヲ行ヒ、大撮影ハ凡テ「プロマイド」ニヨレリ。螢光像縮寫ヲ行ヘル他ノ2集團ハ大撮影ヲ行ヒ得ザリシモノ比較的多キヲ以テ其詳述ヲ省略セリ。

以上活動性結核ヲ其ノ輕重ニヨリ、最モ輕キヲ第Ⅰ度トシ進展セルニ從ヒ第Ⅱ度、第Ⅲ度トナ

セリ。集檢ニ於テ第Ⅲ度ヲ直チニ重症ト言フハ其ノ人ノ勤務可能性ニモ及ボス影響ソノ他考フベキ點アルヲ以テ、第Ⅰ度、第Ⅱ度、第Ⅲ度ト大別セントス。而シテ(甲)(乙)(丙)ヲ通ジテ見ルニ、第Ⅰ度42%、第Ⅱ度40%、第Ⅲ度18%ナリ。相當範圍ニ肺結核進展ヲ見ルモノ一シテ尙普通ニ勤務或ハ通學セルモノアルハ注意スベキ事ナリ。

第3項 集團檢診ニ於ケル「ツベルクリン」反應陽性率及陽性度

我國ニ於テ「ツ」反應ヲ集團ニ施行セル例ハ甚ダ

多ク、特ニ陸海軍ニ於テモ詳細ナル調査アリ。此處ニ「ツ」反應ノミニヨル集團檢診ニ關スル諸家ノ報告ニ就テハ省略シ、單ニ余等ノ經驗ヲ述ベ且簡單ニ「ツ」反應ノ基準ニ就テ記セントス。第 3 表ハ、(A)學校關係、(B)種々ナル集團ニ分チテ表示セルガ、(A)ハ 24,607 名、(B)ハ 165,590 名ナリ。コノ内(A)ニ於テハ 2 集團、(B)ニ於テハ 4 集團ハ 2 回又ハ 3 回「ツ」反應検査ヲ行ヒタリ。「ツ」反應検査總人員ハ 190,198 名ナルガ之等ノ各集團ニ於ケル年齢別及其他ノ統計ハ後日ノ發表ヲ期シ今日ハ之ヲ省略ス。集團檢診ニ際シ、「ツ」反應ノ如何ナル方法ヲ用フベキカハ各人ニヨリテソノ意見異ルモ余等ハ主トシテ 2,000 倍 0.1 珉皮内法ヲ用ヒ、多ク 48 時間後ニ判定シ、判定ニ際シテハ發赤ヲ主トシ、陽陰及ヒ陽性度ヲ定メタリ。判定ノ基準ハ次表ノ如シ。尙判定時間ハ場合ニヨレバ 24 時間後ニ行フ事モ、「ツ」反應施行ノ目的ニヨリテハ差

支ヘ無キモ、患者發見ヲ主トズル場合ハ 24 時間後ヨリモ 48 時間後判定ヲ選バントス。

「ツベルクリン」皮内反應判定基準

A.T. 2,000 倍液 0.1 珉 48 時間判定

發赤ノ大キサ (直徑耗)	判定	反應ノ分類	大觀
0—1	—	陰 疑 性 }	陰性
2—4	±		
5—10	+	弱 陽 性 } 中 等 度 陽 性 } 強 陽 性 } 最 強 陽 性 }	陽性
11—20	++		
21—30	+++		
31以上	++++		

水泡形成及壞死ヲ形成セルモノハ別項ニ記載ス尙此ノ判定基準ハ皮内反應 1 萬倍或ハ其他ノ濃度ニ於テモ適用セントス。集團檢診ニ於テ確實ニ活動性ト認ムルモノ、或ハ疑ノ濃厚ナルモノニハ 1 萬倍ヲ用フル方ガ安全ナルモ、所謂健康者ニ於テ 2 千倍 0.1 珉ヲ確實ニ皮内ニ注射シタル場合ハ、副作用トシテ憂慮スベキモノニ遭遇シタル事ナシ。「ツ」反應ニ關スル其他ノ事項ニ就テハ省略ス。

第 3 表 集團檢診ニ於ケル「ツベルクリン」反應陽性率及陽性度

(A) 學 校

被檢集團名	昭和年月	性 年齢	「ツ」反應		被檢 總人員	陰 性				陽 性				水泡 形成	計(率)
			施行方法	判定 基準		—	±	計(率)	+	++	+++	++++			
大阪市内某小學校		♂♀ 8-13	1:5,000 0.05 48時間	7耗以上 陽性	1,405			800 56.9%						605 43.1%	
大阪市内N小學校及 幼稚園	12-10	♂♀ 7-13	1:2,000 0.05 48時間	5耗以上 陽性	1,251	503	117	700 56.0%	110	235	146	54	6	551 44.0%	
同	上	13-10	996	555	72	627 63.0%	29	104	110	123	3	369 37.0%	
同	上	14- ⁵ / ₁₁	1,203	465	108	573 47.6%	140	76	60	326	28	630 52.4%	
大阪市内D小學校	14-12	♂♀ 8-13	748	361	72	433 57.9%	39	49	77	131	19	315 42.1%	
大阪府下某養護學園	¹³ / ₁₄	408	112	70	182 44.7%	94	78	28	26		226 55.3%	
奈良縣小學生	8- ⁴ / ₅	2,219			1432 64.5%						787 35.5%	
奈良縣某山村小學校	11-8	1,330			1139 85.8%						191 14.2%	
香川縣某村小學校	14	472			4178 8.3%						55 11.7%	
神戶市 高等小學校二年	14-7	♂♀ 14-15	5,608	1291	417	1708 30.5%	745	1081	812	807	455	3900 69.5%	
大阪市内I中學校	14-9	♂ 14-18	1,403	310	128	433 31.3%	90	217	236	271	151	965 68.7%	

大阪市内S中學校	14-3	731	376	32	408	38	157	66	59	3	323	44.3%
大阪市内I工業學校	14-3	417	148	34	182	62	95	55	18	5	235	58.8%
阪神間某中學校	12-5	..	1:2,000 0.1 24時間	..	1,013			373						640	63.2%
大阪府I師範學校	14-3	↑ 16-20	1:2,000 0.1 48時間	..	525	75	42	117	15	57	62	199	75	408	77.8%
大阪市内T師範學校	7-5	6耗以上陽性	230			117						113	49.1%
香川縣師範學校	14	5耗以上陽性	331			164						167	50.5%
大阪市内I高等女學校	14-3	♀ 14-18	780	224	59	283	44	218	97	112	26	497	63.7%
大阪市内D家政女學校	14-12	♀ 14-17	188	39	34	73	8	19	37	47	14	115	61.2%
大阪市内女子師範學校	14-3	♀ 16-20	269	62	42	104	22	80	42	16	5	165	61.3%
奈良縣中等學生	8- ⁴ / ₅	↑♀ 13-20	1,285			659						626	48.7%
大阪市青年學校	15-2	↑ 14-21	977	301	58	359	34	191	163	160	70	618	63.3%
大阪帝大醫學部學生	13-4	↑ 20-31	395	35	12	47	12	63	69	181	23	348	88.1%
同上	14-5	↑ 20-31	1:10,000 0.1 48時間	..	423	46	8	54	15	15	60	216	63	369	87.2%
計					24,607										

(B) 種々ナル集團

被檢集團名	昭和年月	性年齢	職業	「ツ」反應		被檢總人員	陰性				陽性					
				施行方法	判定基準		一	士	計(率)	+	++	+++	水泡形成	計(率)		
阪大病院看護婦	2- ⁵ / ₅	♀ 15-19	看護婦	1:2,000 0.1 48時間	7耗以上陽性	142			49						93	65.5%
阪大病院新入看護婦	11- ⁴ / ₁₀	5耗以上陽性	380	179	40	219	29	35	31	53	13	161	42.4%
阪大病院看護婦入所6ヶ月後	14-10	190	8	6	14	16	9	17	99	35	176	92.6%
阪大病院従業員	14-11	↑♀ 15-60	看護使丁	1:10,000 0.1 48時間	..	959	69	38	107	28	145	154	446	79	852	88.8%
大阪府下壯丁豫備檢診	13- ⁸ / ₁₁	↑ 19-20	壯丁	1:2,000 0.1 24時間	..	21,362	5,399	1,196	6,595	3,957	7,051	3,094	665	不明	14,767	69.2%
同上	14- ⁸ / ₁₁	↑ 19-28	..	1:2,000 0.1 48時間	..	20,480	5,894	828	6,722	2,541	6,125	3,248	3,844	不明	13,758	67.2%
大阪府小學教員	13- ⁷ / ₁₁	↑♀ 21-65	教員	11,844	1,127	353	1,480	578	2,910	1,626	4,877	373	10,364	87.5%
同上	14- ⁷ / ₁₁	..	教員使丁	14,535	955	274	1,229	320	1,200	1,351	8,713	1,729	13,306	91.5%

神戸市外民	14-7	↑♀ 1-82	全村	285	89	50	139	20	37	18	60	11	116
開放性結核患者 周圍檢診	12 15	↑♀ 2-52	707	36	19	55	140	252	130	130	不明	652
大阪市乳幼児	9- 11	↑♀ 生後3 年マテ	乳幼 兒	1:1,000 0.1 48時間	..	9,754			9,620						134
大阪市健康 優良児童審査會	14-10	↑♀ 2年8月 マテ	..	1:2,000 0.1 48時間	..	1,417	1,353	25	1,378	23	15	1	0	0	39
大阪市内I會社	13-8	↑♀ 15-50	會社 員	302	20	27	47	10	41	55	109	40	255
大阪市内S商店	14-5	↑♀ 16-62	166	10	1	11	7	21	25	81	15	155
大阪市内T紡績工場	8-10	♀ 13-40	女工	..	6耗以 上陽性	2,922			1,329						1,593
同上	11-10	♀ 13-50	5耗以 上陽性	1,471	86	254	310	385	142	151	395	58	1,131
紡績女工	12-8 14-10	♀ 13-50	64,807			34,512						30,265
大阪市内大某重工業工場	12-10	↑ 15-25	男工	124	11	12	23	19	11	15	54	2	101
大阪市内大某鐵工所	14-6	↑ 15-50	495	68	28	96	20	83	101	144	48	399
大阪市内大某伸銅所	13-10	↑♀ 15-50	職工	1:10,000 0.1 48時間	..	1,572			323						1,249
大阪府下F工場	9- 7 8	↑♀ 13-50	..	1:1,000 0.1 48時間	..	3,339	1,936	279	1,315	251	127	186	1,307	153	2,024
兵庫縣某鑛山	11-8	↑ 21-55	鑛夫	1:2,000 0.1 24-48時間	..	503			193						310
阪神間K工場	15- 1 2	↑♀ 15-55	職工 事務 員	1:2,000 0.1 48時間	..	5,719	573	410	983	473	529	729	2,000	619	4,736
大阪市内大某室內労働者	15-3	↑♀ 17-55	事務 員	2,515	287	1,48	435	178	109	183	1,284	323	2,080
計						185,589									

第4項 檢出セル活動性結核患者ノ「ツベルク
リン」反應陽性度

「フィルム」又ハ寫眞紙撮影、(丙)ハ螢光像縮寫
ヲナセル集團ニ就テ、活動性ト認メタルモノ、

第4表(甲)ハ全員「フィルム」撮影、(乙)ハ一部

「ツ」反應陽性度ヲ表示セルモノナリ。

第4表 檢出セル活動性結核患者ノ「ツベルクリン」反應陽性度
(甲) 全員「フィルム」撮影

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	施行方法	被檢 總人員	「ツ」反 應陽 性%	活動性 結核檢 出數及 %	「ツベルクリン」反應陽性度						
							-	±	+	++	+++	冊	水泡 形成
大阪市I中學校	14-10	↑ 14-18	1:2,000 48時間	1,403	68.7	36 2.6%			2	5	9	11	9
大阪帝大醫學部 生	13-4	↑ 20-31	..	395	88.1	9 2.3%			1	4	3	1	1
同上	14-5	..	1:1,000 48時間	423	87.2	4 1.0%			1		3		1.3%

阪新大病院婦 入看護婦	昭和 14-10	性 ♀	1:2,000 48時間	57745.2	3 0.5%									3 0.8%
神戸市外民 某村全村	14-7	↑♀ 1-82		28551.3	7 2.5%		1 5.0%	2 5.4%	1 5.6%	3 5.0%				
計				3,083	59 1.9%		3 1.8%	9 2.5%	14 3.4%	23 2.9%				10 3.8%

(註) 各陽性度ニ於ケルハ同ニ陽性度ノ全被檢者ニ對スル率ナリ

第4表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	「ツ」反被檢 施行方法	被檢 總人員	活動性 反應 結核 檢出 數及 率	「ツベルクリン」反應陽性度						水泡 形成
						-	±	+	++	+++		
大阪市N小 校及幼稚園	12-10	↑♀ 7-13	1:2,000 48時間	1,25144.0	5 0.4%				1 0.4%	2 1.4%	1 1.8%	1 16.7%
同 上	13-10	99637.0	4 0.4%			1 1.0%	1 0.9%	2 1.6%		
同 上	14-5	↑♀ 7-9	..	54846.5	7 1.3%		1 1.4%				5 5.6%	1 10.0%
奈良良縣 某山村小學	11-8	↑♀ 8-13	..	1,33014.2	3 0.2%				1 1.3%	1 1.5%	1 1.5%	
神戸市高等小 學二年	14-7	↑♀ 11-15	..	5,60869.5	43 0.8%			8 0.7%	5 0.6%	12 1.5%	18 3.9%	
大阪府 大五中等學校	14-2	↑♀ 11-20	..	2,72259.8	30 1.1%			8 1.3%	8 2.5%	8 1.9%	6 5.3%	
阪神間 某中學校	12-5	↑ 11-18	1:2,000 24時間	1,04363.1	15 1.5%				7 1.3%	4 1.2%	3 1.1%	1 1.0%
大青 年學校	15-2	↑ 11-21	1:2,000 48時間	97763.3	3 0.3%							
大阪府下莊丁 豫備檢診	13-11	↑ 19-20	1:2,000 24時間	21,36269.2	124 0.6%	5 0.1%	2 0.2%	26 0.7%	46 0.7%	35 1.1%	10 1.5%	不明
同 上	11-11	↑ 19-28	1:2,000 48時間	20,18067.2	345 1.7%	37 0.6%	3 0.1%	25 1.0%	125 2.1%	103 3.2%	52 2.9%	不明
大阪府 大小學教員	13-11	↑♀ 21-65	..	11,81187.5	98 0.8%			2 0.3%	29 1.0%	35 2.2%	27 5.5%	5 1.3%
同 上	14-11	11,53591.5	106 0.7%				11 0.9%	18 1.3%	60 0.7%	17 0.1%
大阪市I會社	13-8	↑♀ 15-60	..	30281.4	1 1.3%					1 1.8%	2 1.8%	1 2.5%
大阪府F工場	13-11	↑♀ 15-50	1:1,000 48時間	3,34560.6	13 0.6%		1 0.4%	1 0.4%			11 0.7%	
兵庫縣某鑛山	11-6	↑ 20-60	1:2,000 24時間	50361.2	4 0.8%				1 1.3%	1 1.5%	2 1.9%	
開放性肺結核 患者周圍檢診	12-15	↑♀ 2-52	1:2,000 48時間	70792.2	97 13.7%			13 9.3%	34 13.5%	31 23.8%	19 14.6%	
計				87,523	901 1.0%	42 0.2%	6 0.1%	69 0.7%	272 1.4%	246 2.1%	213 1.1%	53 1.8%

第4表 (丙) 全員莖光像縮寫

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	「ツ」反被檢 施行方法	被檢 總人員	活動性 反應 結核 檢出 數及 率	「ツベルクリン」反應陽性度						水泡 形成
						-	±	+	++	+++		
大阪市 N小學校	14-10	↑♀ 9-13	1:2,000 48時間	65555.7	5 0.8%					1 7.7%	2 0.8%	2 10.5%

大阪市D小學校 及家政女學校	14-12	↑♀ 8-17	..	936	42.1	10	1.1%	1	1	1	7	2.1%	1.5%	1.0%	2.9%		
阪大病院 従業員	11-11	↑♀ 15-60	..	959	88.8	25	2.6%	1	1	3	16	3.8%	0.7%	2.0%	3.6%	5.1%	
大阪市場 紡績工場	14-10	♀ 13-60	..	1,424	76.9	5	0.4%				3				0.8%	3.5%	
阪神間K工場	15-1	↑♀ 15-55	..	5,719	82.8	72	1.3%	1	1	13	43	0.2%	0.8%	1.8%	2.0%	6	1.0%
大阪市 某室内労働者	15-3	↑♀ 17-55	..	2,545	82.7	56	2.2%			5	38			2.7%	3.0%	13	4.0%
計				12,208		173	1.4%	3	6	23	114	0.2%	0.6%	1.7%	2.3%	27	2.4%

(甲) 及ビ(丙) 群ニ於テハ陰性及ビ疑陽性ヨリハ活動性結核ヲ檢出シ得ザルモ、(乙) 群ニ於テハ陰性者ヨリ 42 名、疑陽性者ヨリ 6 名ノ活動性結核ヲ認メタリ。之等ハ凡テ壯丁豫備檢診ニ於ケルモノニシテコノ場合ノ「ツ」反應陰性ハ「ツ」反應行ヒタル後ソノ發赤ヲ被檢者自身ヲシテ硫酸紙ニ描カシメ報告セシメタルモノナル故一、ソノ成績ハ多少確實性ヲ缺クモノナリ。兎モ角陰性及疑陽性ニ於テハ甚ダ少数ノ活動性結核ヲ診斷シタルノミナリ。無論周圍檢診ノ如ク感染機會多キモノニ就テ檢診スル場合ハ不全「アレルギー」ニ於ケルモノ多キ可能性アリ、又非特異性影響ニ因リ一時的「アレルギー」ノモノ無キニシモ非サルヲ以テ、陰性者及ビ陽性者ニ活動性無シトハ勿論言ヒ得ザルトリ。カ、ル故ニ米國學生健康協會ニ於テモ先ヅ「ツ」反應ヲ行ヒソノ陽性者ノミニ就テX線撮影ヲ爲シタリ。米國「マイヤース」ノ報告ニヨルモ陰性者ノ活動性結核ハ少数ナリ。無論ツ反應陰性及疑陽性者ニモX線檢査ヲ爲スハ理想的ナルモ、經費、手數ヲ省略セントスル場合ハ「ツ」反應ヲ檢シ、ソノ陽性者ノミニ就テX線檢査ヲ行フモ可ナリ。但シ螢光像縮寫ヲ行ヒ檢査日數ヲ短縮スル如キ場合ニ於テハ、初メヨリ螢光像縮寫ヲナシ活動性ノ疑アルモノノミニ「ツ」反應ヲ行ヒ又大撮影等ヲ爲ス事モ、亦一方法ナリ。

後出第 16 表ニ於テ示セル如ク集團檢診後ニ結核發病セル患者ノ最初ノ「ツ」反應ハ、陰性及ビ疑陽性ナル者相當多シ。紡績女工手ニ於テ「ツ」反應ヲ檢セル 48,610 名中ヨリ 1 年内外ニシ

テ發病セル者ハ 1,119 名、即チ 2.3% ニ相當シ、内陰性者及ビ疑陽性者ハ 331 名、即チ陰性及ビ疑陽性者全員ニ對シ 1.8%、陽性者ヨリノ發病ハ 992 名、2.4% ニ相當ス。斯クノ如ク紡績女工手ニ於テハ陽性者ヨリノ發病多カリシモ、他ノ集團ニ於テハ陰性者ヨリノ發病多キモノモアル故ニ、第 16 表全體ニテハ、大觀的陰性ヨリノ發病ハ 2.0%、大觀的陽性ヨリノ發病ハ 2.2% ニシテ、大體ニ於テ大差ハ認メ得ザリキ。又コノ内 6 集團ニ就テ陰性者中ヨリ發病スル者ノ内、2 ヶ月以内ニ發病セル者ハ N 小學校及ビ幼稚園(昭 13)ニテ 1 例、阪大病院看護婦ニテ 1 例、紡績女工手ノ内、13,394 名ニ關スル調査中ヨリ 18 例、計 20 例ニシテ、N 小學校及ビ幼稚園(昭 12)、阪大醫學部學生(昭 13) 及ビ(昭 14)ヨリハ無カリキ。又 2 ヶ月以上 1 年以内ニ發病セル者ハ 105 名ニシテ全體ノ 84%ヲ占ム。2 ヶ月以内ニ發病セル 20 例即チ 16%ハ集團檢診時ニ於テ不全「アレルギー」ノ状態ニアリシカト考ヘラル、モノアルバキモ、其當時ニ於テハ紡績女工手ニ於テハX線檢査ヲ爲サズ、他ハX線檢査ヲ行ヒタルモ活動性結核ヲ檢出シ得ザリシモノナリ。以上ノ如キ成績ヨリ見ルモ集團檢診ニ於テ「ツ」反應陰性及疑陽性者ニ就テモX線檢査ヲ行フ事ハ理想的ナルモ實際問題トシテ「ツ」反應陽性者ノミニX線撮影ヲ爲ス事ハ、費用其他ヨリ考フレバ推奨スベキナリ。

鱗ツテ檢出セル患者ノ「ツ」反應陽性度ヲ見ルニ第 4 表(甲)(乙)(丙)ニ示ス如ク、(甲) 全員「フィルム」撮影ヲ爲セル集團ニ於テハ(+)ヨリ 3 名、

即ち全(+)陽性者ニ對シ1.8%、(++)ヨリハ9名、全(++)陽性者ニ對シ2.5%、(+++)ヨリハ14名、3.4%、(++++)ヨリハ23名、2.9%ナリ。尙(++++)ノ他ニ水泡形成ヨリハ10名、3.8%ヲ證明ヒレガ、之等水泡形成ハ多クノ場合(++++)ニ合ルベキモノナリ。以上ノ如ク大體ニ於テ陽性度ヲ増スト共ニ、ソノ陽性度全人員ニ對スル檢出率ハ増加ス。(乙)一部「フィルム」撮影ヲ爲セル集團及ビ(丙)螢光像縮寫ヲ爲セル集團ニ於テモ、大體斯クノ如キ傾向アリ。以上(甲)(乙)(丙)3群ヲ總括スルニ、(+)ヨリハ75名、(++)全被檢者ニ對シ0.6%、(++)ヨリハ287名、1.2%、(++++)ヨリハ283名、1.6%、(++++)ヨリハ350名、1.1

%、水泡形成ヨリハ90名、1.3%ニシテ、弱陽性ヨリモ相當數ノ活動性結核ヲ檢出スルヲ知り得ルナリ。カ、ル故ニ集團檢診ニ於テ「ツ」反應陽性ノ基準ヲ定ムルニ際シテ4耗以下ヲ大觀の陰性トシ、5耗以上ヲ陰性ト爲ス事ヲ適當ナリト考フ。

尙疑活動性結核患者等ニ就テハ今回ハ省略ス。

第5項 集團檢診ニ於ケル赤血球沈降速度

集團檢診ニ於テ赤沈ヲ行ヒタル者ノ内、結核其他著患ヲ有スル者ヲ除外シ、大阪附近ニ於ケル所謂健康者ニ就キテ、其ノ赤沈1時間値ヲ見タルニ上表ノ如シ。此ノ所謂健康者ト言フハ普通ニ通學或ハ勤務セルモノ、集團ニ就キテ檢診ヲ

		男			子				
赤沈値	被檢者數	1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上	計	
	數	34,303	6,596	1,602	432	191	190	43,314	
	%	79.2	15.2	3.7	1.0	0.4	0.4	100	

		女			子				
赤沈値	被檢者數	1-10	11-15	16-20	21-30	31-40	41-50	51以上	計
	數	6,258	3,526	1,95	21,673	553	223	209	14,394
	%	43.5	24.5	13.6	11.6	3.8	1.5	1.5	100

行ヒタル者ノ内、結核患者及ヒ其他著患ヲ有スル者ヲ除キタルモノナルガ、多少ノ胃腸障礙、蛔蟲症、其他寄生蟲病、多少ノ貧血、婦人科疾患、輕度ノ脚氣等ハ含マルモノニシテソノ年齢ハ11歳ヨリ65歳ニ至リ、各種ノ職業ヲ包有ス。測定時室温ハ15度--32度、測定方法ハウエストルグレン氏法ニヨレリ。尙集團檢診ニ於テハ多數ノ試験管ヲ要スル故ニ又外氣溫度ヲ一定シ得ザル場合多キ故ニ1時間値ノミニテ判定スルガ便利ナリ。

全人員、男子ハ43,314名、女子ハ14,394名ニシテ男子ニ於テハ、1—10、女子ニ於テハ1—20ノ赤沈値ヲ有スル者ガ約80%ヲ占ム、集團檢診ニ於テ患者發見ノ爲ニハ男子ニテハ21以上、女子ニテハ31以上ニ活動性結核ノ疑ヒ濃厚ト認メタリ。

第5表ハ、(A)學校關係、(B)種々ナル集團ニ就テ全員ニ赤沈檢査ヲ爲セル成績ヲ示セルモノニシテ、檢出セル患者ノ赤沈ヲモ含マレアリ。參考ノ爲メ此所ニ掲ゲタリ。

第5表 集團檢診ニ於ケル赤血球沈降速度

(A) 學 校

被檢集團名	昭和年月	性年齢	測定時室溫	被檢總人員	赤沈1時間値					
					1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上
大阪市N小學校	12-10	♀ 11-13	18°C	472	268 56.8%	130 27.5%	34 7.2%	26 5.5%	10 2.1%	4 0.8%
同	上	13-10	..	461	204 44.3%	194 42.1%	41 8.9%	12 2.6%	3 0.7%	7 1.5%

同	上	14-11	↑ ♀ 10-13	..	695	368 52.9%	194 27.9%	68 9.8%	26 3.7%	17 2.4%	22 3.2%
大阪市 D 小學校及 家政女學校		14-12	↑ ♀ 11-17	..	586	307 52.4%	165 28.2%	43 7.3%	33 5.6%	17 2.9%	21 3.6%
大阪府某養護學園		14-14	↑ ♀ 8-13	..	408	200 49.0%	115 35.5%	35 8.6%	23 5.6%	5	1.2%
奈良縣某山村小學校		11-8	↑ ♀ 10-13	23°C	219	36 16.4%	143 65.3%	31 14.2%	9	4.1%	
神戸市高等小學校二年		14-7	↑ ♀ 14-15	28-32°C	5,608	2,520 44.9%	2,092 37.3%	580 10.3%	13 0.2%	96 1.7%	
大阪市 I 中學校		14-10	↑ 14-18	18°C	1,403	985 70.2%	294 21.0%	80 5.7%	18 1.3%	11 0.8%	15 1.1%
大阪府五中等學校		14-2	↑ ♀ 14-20	15°C	2,722	1,923 70.6%	525 19.3%	148 5.4%	56 2.1%	27 1.0%	13 1.6%
阪神間某中學校		12-5	↑ 14-18	18°C	1,013	826 81.5%	160 15.8%	18 1.8%	7 0.7%	2 0.2%	
奈良縣中等學生		9-12	↑ ♀ 14-18	15°C	397	316 77.1%	55 13.9%	17 4.3%	7 1.8%	2 0.5%	0
大阪市青年學校		15-2	↑ 14-25	12°-14°C	1,006	893 88.8%	75 7.5%	16 1.6%	11 1.1%	4 0.4%	7 0.7%
大阪帝大醫學部學生		13-4	↑ ♂ 20-31	18°C	425	394 92.7%	21 5.6%	3 0.7%	1 0.2%	2 0.5%	1 0.2%
同	上	14-5	407	369 90.7%	33 8.1%	2 0.5%	0	3 0.7%	0
計					15,822	9,609 60.7%	5,314 33.6%	360 2.3%	232 1.5%		

第 5 表 (B) 種々ナル集團

被檢集團名	昭和 年月	性 年齢	職業	測定時 室温	被檢 總人員	赤沈 1 時間値					
						1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上
阪大病院新入看護婦	4 10	♀ 15-20	看護婦	18°C	577	300 52.0%	197 34.1%	16 8.0%	15 2.6%	8 1.4%	11 1.9%
大阪府下壯丁豫備檢診	13- 8-11	♂ 19-20	壯丁	18°C- 32°C	21,362	16,754 78.4%	2,949 13.8%	811 4.0%	347 1.6%	178 0.8%	290 1.4%
同	上 14- 8-11	♂ 19-28	21,219	17,348 81.8%	2,164 11.6%	738 3.5%	411 2.1%	228 1.1%	
大阪府小學教員	13- 7-11	↑ ♀ 21-65	教員	..	11,844	7,381 62.3%	2,922 24.7%	853 7.2%	281 2.4%	163 1.4%	244 2.1%
同	上 14- 7-11	..	教員 丁	..	13,830	8,789 63.6%	3,282 23.7%	952 6.9%	363 2.6%	187 1.4%	257 1.9%
大阪市 I 會社	13-8	↑ ♀ 15-60	會社員	28°C- 32°C	342	227 66.4%	72 1.9%	26 7.6%	6 1.8%	5 1.5%	3 0.3%
阪大病院從業員	14-11	↑ ♀ 15-60	看護婦 使丁	18°C	881	369 41.9%	308 35.0%	108 12.3%	42 4.8%	17 1.0%	37 4.2%
大阪市 T 紡績工場	14-10	♀ 13-60	女工	20°C	1,121	790 55.5%	409 28.7%	125 8.8%	15 3.2%	29 2.0%	26 1.8%
大阪府 F 工場	13- 7-9	↑ ♀ 15-50	職工	28°C- 32°C	3,221	1,660 51.5%	1,064 33.0%	349 10.8%	123 3.8%	21 0.7%	7 0.2%
兵庫縣某鑛山	12-3	♂ 25-55	鑛夫	18°C	192	102 33.1%	52 7.1%	15 7.8%	17 8.9%	6 3.1%	
神戸市外某村全村民	14-7	↑ ♀ 10-82	全村民	30°C	277	132 47.7%	72 26.0%	33 11.9%	16 5.8%	11 4.0%	13 4.7%
開放性肺結核患者 周圖檢診	12- -15	↑ ♀ 10-52		18°C	635	278 43.7%	183 28.8%	67 10.6%	37 5.8%	25 3.9%	45 7.1%
計					75,807	54,130 71.4%	13,977 18.4%	4,166 5.5%	2,337 3.1%	1,167 1.5%	

尙余等ハ今村内科外來ニ於テハ、赤沈値測定ハ18—20度ノ恒温室中一テ行ヒ、且1時間値及2時間値ヲ測定シ居レルモ、實驗ニ於テハ多數人ニ就キ行フ故ニ1時間値ノミヲ以テ判定セリ。而シテ經驗ニ依レバ1時間値小ニシテ2時間値ノ著シク大ナル例ハ甚ダ少數ナリ。又測定時室温ノ差ニ關スル補正ハ各人ニヨリテ差異アリテ一様ニ行ヒ得ザルモノノ如ク、集檢ニ於テハ恒温装置ヲ用ヒ得ザル場合多キヲ以テ、甚ダ高温又ハ低温ニ於テ測定セル値ニ就テハ、注意ヲ要スベキナリ。カ、ル故ニ温度ノ影響ヲ少クスル爲一モ1時間値ノミヲ用フル事ガ便利ナリ。但シ恒温装置ニヨリ、又1時間値及2時間値ヲ測定スル事或ハ詳細ニ觀察スル事ガ理想トルハ言テ俟タザル處ナリ。トモカク試験管ヲ恒温一入レ得ザル場合多キ集檢ニ於テハ赤沈測定時室温ヲ必ズ記載スル事ハ必要ナリ。

第6項 檢出セル活動性結核患者ノ赤沈値

第6表(甲)ハ全員「フィルム」撮影ヲ爲セル集團

ニ於テ檢出セル活動性結核患者ノ赤沈値ヲ示セルモノニシテ、總被檢人員3,089名中、活動性結核患者60名、内1時間値1—10、11名、1—10値ヲ有スル全員ニ對シ1.5%、11—20ヨリハ20名、3.2%、21—30ヨリハ14名、13.7%、41—50ヨリハ5名、15.6%、51以上ヨリハ10名25%トリ。

第6表(乙)ハ一部「フィルム」撮影ヲナセル集團及ビ(丙)螢光像縮寫ヲナセル集團ニ於テモ略々同様ノ成績ヲ示シ、一般ニ赤沈促進セルモノヨリノ檢出率ハ高シ。大體ニ於テ男子ハ赤沈1時間値20以上、女子ハ30以上ニ於テ活動性結核多キ故ニ、判定基準ハ男子ニ於テハ11以上、女子ニ於テハ21以上ヲ稍々促進、男子ニ於テハ21以上、女子ニ於テハ31以上ヲ輕度促進、男子ニ於テハ31以上、女子ニ於テハ41以上ヲ中等度促進、男子ニ於テハ41以上、女子ニ於テハ51以上ヲ強度促進ト大別シテ活動性診斷ノ參考ニ資シツ、アリ。

第6表 檢出セル活動性結核患者ノ赤沈値

(甲) 全員「フィルム」撮影

被檢集團名	檢診年月	性年齢	赤沈測定室溫	被檢人員	活動性結核檢出數及%	赤沈反應 1時間値					
						1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上
大阪市I中學校	昭和14年10月	♂ 14-18	18°C	1,403	36 2.5%	7 0.7%	12 4.1%	9 1.3%		2 18.2%	6 40.0%
大阪帝大醫學部學生	13-4	♂ 20-31	..	425	9 2.1%	4 1.0%	4 17.4%	1 33.3%			
同	上	14-5	..	407	5 1.2%		3 9.1%	1 50.0%		1 33.3%	
阪大病院新入看護婦	9-14-4-10	♀ 15-25	..	577	3 0.5%		1 0.5%	1 2.2%		1 12.5%	
神戸市外某村全村民	11-7	♂♀ 1-82	28°C-30°C	277	7 2.5%			2 6.1%		1 9.1%	4 30.4%
計				3,089	60 1.9%	11 0.5%	20 3.2%	14 13.7%		5 15.6%	10 25.0%

(註) 各赤沈値ニ於ケル%ハ同一赤沈値全被檢人員ニ對スルナリ

第6表(乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被檢集團名	檢診年月	性年齢	赤沈測定室溫	被檢人員	活動性結核檢出數及%	赤沈反應 1時間値					
						1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上
大阪市N小學校	昭和12年10月	♂♀ 11-13	18°C	472	2 0.4%					1 100%	1 25.0%
同	上	13-10	..	461	1 0.2%				1 8.3%		

奈良縣某山村小學校	11-8	↑ ♀ 11-13	23°C	219	3		1			2	
神戸市高等小學校二年	14-7	↑ ♀ 14-15	28°C- 32°C	5,608	43 0.8%		1 0.1%	5 0.9%	13 4.1%	24 25.0%	
大阪府五中等學校	14-2	↑ ♀ 14-20	15°C	2,722	30 1.1%	1 0.1%	2 0.2%	6 0.5%	6 0.7%	6 22.2%	9 20.9%
阪神間某中學校	12-5	↑ 14-18	18°C	1,013	15	2	7	5		1	
大阪市青年學校	15-2	↑ 14-25	12°C- 14°C	1,006	3 0.3%				1 9.0%		2 28.6%
大阪府下壯丁豫備檢診	13- ⁸ / ₁₁	↑ 19-20	18°C- 32°C	21,362	124 0.6%	3 0.02%	8 0.3%	4 0.5%	20 5.8%	13 7.3%	76 26.2%
同 上	14- ⁸ / ₁₁	↑ ♀ 19-28	..	21,219	372 1.8%	17 0.1%	30 1.2%	51 6.5%	21 27.4%	153 67.1%	
大阪府小學教員	13- ⁷ / ₁₁	↑ ♀ 21-65	..	11,844	98 0.8%	1 0.02%	5 0.2%	14 1.6%	17 6.1%	12 7.4%	49 20.1%
同 上	14- ⁷ / ₁₁	13,830	10 40.8%	7 0.1%	5 0.2%	13 1.4%	16 4.2%	15 8.6%	48 18.7%
大阪市 I 會社	13-8	↑ ♀ 15-60	28°C- 32°C	342	4 1.2%			1 3.8%	1 16.7%	1 20.0%	1 33.3%
大阪府 F 工場	13- ⁷ / ₉	↑ ♀ 15-50	..	3,224	13 0.4%	1 0.1%		3 0.9%		2 9.5%	7 100%
兵庫縣某鑛山	11-6	↑ 20-60	18°C	192	4 2.1%	1 1.0%	1 1.9%	2 13.3%			
開放性肺結核患者 周圍檢	12- ¹ / ₁₅	↑ ♀ 2-52	..	707	97 13.7%	5 1.8%	26 14.2%	14 20.9%	1 32.4%	11 44.0%	29 64.4%
計				84,221	913 1.1%	38 0.2%	86 0.5%	118 2.5%	272 11.4%	399 32.3%	

第 6 表 (丙) 全員莖光像縮寫

被檢集團名	檢診年月	性 年齡	赤沈 測定 室溫	被檢 總人員	活動性 結核 檢出 數及 %	赤沈反應 1 時間値						赤沈 行ハズ
						1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51以上	
大阪市 N 小學校	昭和14 年11月	↑ ♀ 11-13	18°C	695	6 0.9%		1 0.5%		2 7.7%		3 13.6%	
大阪市 D 小學校 及家政女學校	14-12	↑ ♀ 11-17	..	586	6 1.1%	2 0.7%		1 2.3%		1 5.9%	2 9.5%	
大阪病院従業員	14-11	↑ ♀ 15-60	..	881	25 2.6%	1 0.3%	2 0.6%	4 3.7%	5 11.9%	7 41.2%	6 16.2%	•
大阪市 T 紡績工場	14-10	♀ 13-60	20°C	1,424	5 0.4%				1 22.2%	2 6.9%	2 7.7%	
阪神間 K 工場	15- ¹ / ₂	↑ ♀ 15-55	12°C	5,719	74 1.3%	31	6	5	5	3	8	16
大 阪 市 某室内労働者	15-3	↑ ♀ 17-55	18°C	2,515	59 2.4%	10	17	9	7	4	9	3
計				11,820	175 14.8%	44 0.2%	26 0.3%	19 1.5%	20 2.3%	17 12.5%	30 12.2%	19

(註) %記數ナキ分ハ全員ニ赤沈反應ヲ施行セズ檢出患者ノミニ行ヒタル集團ナリ。「計」ニ於ケル
%ハ全員ニ赤沈反應ヲ施行セザル集團ヲ除キテ檢出率ヲ計算セリ。

赤沈ノ促進セル者ハ結核性疾患アルカ或ハ他ノ疾患アルカ、他ノ生理的影響ニヨルカ、或ハ又赤沈測定手技ニ因ルモノナルガ、赤沈 1 時間値 31 以上ノ者ニ就キ昭和 9 年來教室ノ黃楊一雄

ガ觀察シタルニ、第 7 表ニ示セル如ク、此中ヨリ相當數ニ結核性疾患ノ發病ヲ見ルモ、5 年後ニテ尙赤沈促進シツ、健康ヲ續クル者モアリ。又一面第 6 表ニ於テ見ル如ク 1—10 ノ如キ常値

ニ於テモ全1—10赤沈者ノ0.2—0.5%ニ活動性結核ヲ檢出セリ。尙集團檢診後結核發病セル者ノ最初ノ赤沈値ヲ6集團、5,327名ニ就キ調査セルニ赤沈値1—10ヨリハ1.6%、11—20ヨリハ2.3%、21—30ヨリハ3.1%、31—40ヨリハ19.8%、41—50ヨリハ60.8%、51以上ヨリ

ハ42.3%ニシテ31以上ヨリ發病セル者ハ率ニ於テ1—30ヨリ發病セル者ニ比シ遙カニ高シ。然レ共第7表ニ見ル如ク赤沈促進セルモノガ、必ズシモ近キ將來ニ結核發病ヲ爲ストハ言ヒ得ザルナリ。

第7表 織維工場女工手ニ於ケル赤沈促進者ノ經過
(「結核」第15卷第3號(昭和12年)發表後ノ經過(黃楊調査))

番 號 姓	「ツ」皮内反應				赤沈(1時間値)				昭和11年現在 胸部X線像	疾 病	退社理由及 健在者ノ狀態
	昭和 9・8・9 1:1,000	昭和 11 1:2,000	昭和 13-6 1:2,000	昭和 14-9 1:2,000	昭和 9	11	13	14			
1	+	+	+	+	57	31	35	37	著變ナシ		自覺他覺症ナシ 體重47.5斤
2	+	+	+		43	30	25				昭14-2結婚退社
3	+	+			31	31					昭11-5結婚退社
4	+	+	+		37	37	40				昭13-7事故退社
5	+	+	+	昭 12-5	38	31	111 12-5			昭12-12肺結核死 亡	死 亡
6	+	+	+		38	30	40				昭14-11結婚退社
7	+	+	+	+	37	34	41	31	兩肺門部陰影稍 増加		自覺他覺症ナシ 體重51.7斤
8	+	+	+	昭 12-8	31	44	93 12-8			昭12-8濕性肋膜炎	退社後昭14-2肺結 核ニテ死亡
9	+	+	+		40	37	30				昭13-10事故退社
10	+	+	+	+	34	34	35	27	兩肺門部陰影稍 増加		自覺他覺症ナシ 體重44.7斤
11	-	+	+		47	33	73			昭13-5濕性肋膜炎	病氣退社
12	+	+			36	34					昭12-3結婚退社
13	+	+			38	47					昭11-12事故退社
14	+	+	+		38	32	35				昭13-12他社へ轉 勤
15	+	+			35	37				昭13-2乾性肋膜炎	退社後健在
16	+	+	+	+	34	37	40	41	兩肺門部陰影増加		自覺他覺症ナシ 體重45.9斤
17	+	+			42	32					昭12-1事故退社
18	+	+	+	+	41	32	37	61	左肺融合性陰影	肺結核ニテ治療中	治療中
19	+	+	+		58	35	20				昭13-12事故退社

20	■	++	++	++		84	34	25				昭 13-10 結婚退社
21	■	+	++			116	117					昭 11-11 結婚退社
22	■	卅	卅	卅		49	77	61				昭 13-12 他社へ轉勤
23	■	卍	卍	卍		32	58	50				昭13-7他社へ轉勤
24	■	++	++	++	卅	49	65	61	53	兩肺門部陰影増加		現在妊娠中 6ヶ月 體重37.8斤
25	■	卍	卍	卍		39	95	83			昭13-7肺結核死亡	死亡
26	■	卍	卍	卍	昭 12-6	39	50	70 昭 12-6			昭12-6濕性肋膜炎	病氣退社

但シ

- 「ツ」反應：
 (一)發赤腫脹ナシ
 (±)10耗以下
 (+)11-20
 (++)21-50
 (卅)51以上
 (卍)水泡壞死ヲ含ム

第二次調査(昭11-2)後ノ 26 名ノ經過

- 健 在 5
 結 核 罹 患 3 内 2 死亡
 肋 膜 炎 罹 患 4 内 1 死亡
 結 婚 退 社 6
 事 故 退 社 6
 轉 勤 2
 計 26

既述ノ如ク檢出セル結核患者ノ赤沈値ガ(甲)(乙)(丙)各群ニ於テ常値ナル者ニ相當數アル故ニ先ヅ最初ニ赤沈ノミヲ檢シ、而シテ常値者ヲ除外スルガ如キ方法ニ依リテ要X線者ヲ決定スレバ、相當數ニ活動性結核ヲ見逃ス恐レアリ。

第 7 項 檢出セル活動性結核患者ノ胸部理學的所見特ニ囉音

他ノ表ニ於ケル如ク、第 8 表ヲ(甲)(乙)(丙)ニ分ツ。

活動性結核患者中水泡音、乾性囉音、摩擦音ヲ聽取シ得ザル者ハ(甲)ニハ 71.9%、(乙)ニハ 57.4%、(丙)ニハ 62.4%、全集團ヲ總括スルニ 58.9%ナリ。即チ約 60%ハ囉音、摩擦音等ヲ聽取シ得ザル活動性結核ナリ。

此ノ中ニハ肺門淋巴腺結核モ含マル、モ、肺結核ニシテ囉音ヲ聽カザルモノアルハ常ニ經驗スル處ナリ。

第 8 表 檢出セル活動性結核患者胸部理學的所見(特ニ囉音)

(甲) 全員「フィルム」撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核檢出數	囉 音 ヲ 聽 ク モ ノ			囉音ヲ聽カザルモノ
		水 泡 音	乾性囉音	摩 擦 音	
大 阪 市 I 中 學 校	36	6(16.7%)	3 (8.3%)	2 (5.6%)	25(69.4%)
大阪帝大醫學部學生(昭13)	11	2	0	1	8
同 上(昭14)	7	1	0	1	5
阪大病院新入看護婦	3	0	0	0	3
計	57	9(15.8%)	3(5.3%)	4 7.0%	41(71.9%)

第 8 表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核檢出數	囉 音 ヲ 聽 ク モ ノ			囉音ヲ聽カザルモノ
		水 泡 音	乾性囉音	摩 擦 音	
大阪市N小學校及幼稚園(昭12)	5	1	1	0	3

同 上 (昭13)	4	2	0	0	2
同 上 (昭14)	7	0	1	0	6
奈良縣某山村小學校	3	1	0	0	2
和歌山市某小學校	7	4	0	0	3
神戸市高等小學校二年	43	4 (9.3%)	6 (14.0%)	6 (14.0%)	27 (62.8%)
大阪府五中等學校	30	3 (10.0%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	23 (76.7%)
阪神間某中學校	15	2	0	0	13
大阪市青年學校	3	0	0	0	3
大阪府下壯丁豫備檢診 (昭13)	124	36 (29.0%)	10 (8.1%)	16 (12.9%)	62 (50.0%)
同 上 (昭14)	372	107 (28.8%)	18 (4.8%)	4 (0.1%)	243 (65.3%)
大阪府小學教員 (昭13)	98	56 (57.1%)	11 (11.2%)	2 (2.0%)	29 (29.6%)
同 上 (昭14)	106	46 (43.4%)	0	0	60 (56.6%)
堺市某事務所	8	5	1	0	2
大阪市I會社	4	0	1	0	3
大阪市S商店	4	0	2	0	2
大阪府F工場	10	3	0	1	6
兵庫縣某鑛山	4	4	0	0	0
開放性肺結核患者周圍檢診	97	36 (37.1%)	7 (7.2%)	1 (1.0%)	53 (54.6%)
計	944	310 (32.8%)	60 (6.4%)	32 (3.4%)	542 (57.3%)

第8表 (丙) 全員螢光像縮寫

被檢集團名	活動性結核檢出數	囉音ヲ聽クモノ			囉音ヲ聽カザルモノ	診察セザルモノ
		水泡音	乾性囉音	摩擦音		
大阪市N小學校	5	0	1	0	4	
大阪市D小學校及家政女學校	10	1	1	0	8	
阪大病院從業員	25	4	3	0	18	
大阪市T紡績工場	5	0	0	1	4	
阪神間K工場	74	24 (32.4%)	4 (5.4%)	1 (1.4%)	34 (46.0%)	11 (14.9%)
大阪市某室内労働者	59	15 (25.4%)	1 (1.7%)	0	43 (72.9%)	
計	178	44 (24.7%)	10 (5.6%)	2 (1.1%)	111 (62.4%)	11 (6.2%)

教室ノ平尾稔ハ今村内科入院患者 2,103 名ニ於テ囉音ヲ聽カザル者相當數アル事ヲ嘗ツテ本學會席上ニ於テ報告セリ。

之等ニ就テハ既ニエッゲル・コブシユ・ホールマン等ノ報告セル處アルモ、亦早期浸潤、肺門結核等ガ胸部理學の所見ヲ缺ク事アル事實ヨリモ考ヘラル、所ニシテ、集檢ニ於テ「レントゲン」檢査ノ必要ナルヲ示スモノナリ。

第8項 檢出セル活動性結核患者ノ喀痰中結核菌

第9表ニ示セル如ク、(甲)全員「フィルム」撮影ヲナセル集團ニ於テ、活動性結核中抗酸性菌ヲ檢出シ得タルハ 13.7%、(乙)一部「フィルム」撮

影ヲナセル集團ニテハ 31.9%、(丙)螢光像縮寫ヲナセル集團ニテハ 15.0%ニシテ、(甲)(乙)(丙)ヲ合スレバ 27.6%ナリ。

以上ノ檢出方法ハ檢鏡ニヨルモノナリ。本學會ニ於テ教室ノ金南奎ガ報告セル喀痰中ニ結核菌ヲ鏡檢シ得ザル結核患者ノ内約 3 分ノ 1 ハ培養上結核菌ヲ證明シ、又喀痰ヲ喀出セズト言フ患者ノ含嗽液ヨリ約 3 分ノ 1 ニ於テ結核菌ヲ培養シ得タリ。種々ナル材料ヨリノ結核菌ノ培養ニ就テハ熊谷教授門下ヨリ多數ノ報告アルモ、菌ノ檢出率ハ方法ニヨリテ差異ヲ來スベシ。余等ノ集檢ニ於テハ全員ノ喀痰ヲ檢セザルヲ以テ檢診セル全量ヨリノ喀痰中結核菌ニ就テハ余等ハ

報告スル能ハズ。

第 9 表 檢出セル活動性結核患者ノ喀痰中結核菌

(甲) 全員「フィルム」撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核檢出數	喀痰檢査總 數	活動性結核中喀痰檢査數	結 核 菌陽 性 數	全檢査數ニ對スル檢出%	活動性患者中檢査セルモノニ對スル檢出%
大 阪 市 I 中 學 校	36	67	23	4	6.0	17.4%
大阪帝大醫學部學生 昭13	11	11	11	0		
同 上 昭14	7	7	7	0		
阪大病院 新入看護婦	3	3	3	0		
神戸市外某村全村民	7	8	7	3	37.5	42.8
計	61	96	51	7	7.3	13.7

第 9 表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核檢出數	喀痰檢査總 數	活動性結核中喀痰檢査數	結 核 菌陽 性 數	全檢査數ニ對スル檢出%	活動性患者中檢査セルモノニ對スル檢出%
大阪府下某養護學園	3	128	3	2	1.6%	66.7%
神戸市高等小學校二年	43	73	28	10	13.7	35.7
大 阪 市 I 女 學 校	16	30	10	3	10.0	30.0
大阪府下 壯丁豫備檢診 昭14	372	322	260	44	13.7	16.9
大阪府小學校教員 昭13	98	3,378	30	28	0.9	93.3
同 上 昭14	104	4,451	36	17	0.4	47.2
堺 市 某 事 務 所	8	8	8	7	87.5	87.5
大 阪 市 I 會 社	4	271	2	0		
大 阪 府 F 工 場	10	50	10	4	8.0	40.0
兵 庫 縣 某 鑛 山	4	135	4	1	0.7	25.0
開放性肺結核患者周圍檢診	97	93	57	27	29.0	47.4
計	759	8,939	448	143	1.6	31.9

第 9 表 (丙) 全員螢光像縮寫

被 檢 集 團 名	活動性結核檢出數	喀痰檢査總 數	活動性結核中喀痰檢査數	結 核 菌陽 性 數	全檢査數ニ對スル檢出%	活動性患者中喀痰檢査セルモノニ對スル檢出%
阪 神 間 K 工 場	74	158	57	9	5.7	15.8
大 阪 市 某 室 内 勞 働 者	51	92	33	3	3.3	9.1
計	125	250	90	12	4.8	15.0

喀痰中結核菌檢出ニ就テハ、我國ニ於テハ高田海軍軍醫ノ報告アリ、又東北熊谷教室ニ於テハ集檢ニ於ケル喀痰中結核菌培養ノ報告アリ。余等ノ經驗ニ於テハ喀痰ヲ提出セザルモノ多キ故ニ菌檢出率ヲ精確ニ言フ事困難ナリ。或ル集團ニ於テ約 20 名ヲ 1 組トナシ、集菌ニヨリ菌ヲ檢鏡シタル後、ソノ各人ニ就テ調査シタルニ菌陽性ヲ 1 名モ見出シ得ザリシ例アリ。余等經驗ニ

テハ斯クノ如ク菌檢出率少キハ喀痰ヲ蒐集スルニ困難ナリシ故ナルガ各人ノ理解ヲ得テ苟モ活動性結核患者ト認ムル者ハ菌檢出ニ努力スベキ事ハ勿論ナリ。

尙先ヅ喀痰ヨリノ結核菌培養ノミヲ以テ集檢ヲナス事、又ハ檢鏡ノミヲ以テ集檢ヲ爲ス事モ一方法ナレドモ、菌培養ニハ時日ヲ要スル不便アリ、又現在ニ於テ其ノ普及ハ困難ナリ。尙今後

研究ヲ要スベシ。

第9項 檢出セル活動性結核患者ノ健康概評

第10表 檢出セル活動性結核患者ノ健康概評

(甲) 全員「フィルム」撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	概評		
		甲	乙	丙
大阪市I中學校	36	9(25.0%)	18(50.0%)	9(25.0%)
大阪帝大醫學部學生(昭13)	11	2	6	3
同上(昭14)	7	0	4	3
阪大病院新入看護婦	3	0	2	1
神戸市外某村全村民	7	0	4	3
計	64	11(17.2%)	34(53.1%)	19(29.7%)

(註) 概評甲ハ視診ニヨリ體格榮養貧血等ヨリ結核性疾患ノ疑ヒナキ者
 乙ハ 少キモノ
 丙ハ 多キモノヲボス

第10表 (乙) 一部大「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	概評		
		甲	乙	丙
大阪市N小學校及幼稚園(昭12)	5	1	2	2
同上(昭13)	4	0	2	2
同上(昭14)	6	0	4	2
神戸市高等小學校二年	43	13(30.2%)	18(41.9%)	12(27.9%)
大阪府五中等學校	30	6(20.0%)	10(33.3%)	14(46.7%)
大阪市青年學校	3	1	1	1
大阪府下壯丁豫備檢診(昭13)	124	34(27.4%)	40(32.3%)	50(40.3%)
同上(昭14)	372	35(9.4%)	326(87.6%)	11(3.0%)
大阪府小學教員(昭13)	98	21(21.4%)	66(67.3%)	11(11.2%)
同上(昭14)	104	43(41.3%)	56(53.8%)	5(4.8%)
大阪市I會社	4	0	4	0
計	793	154(19.4%)	529(66.7%)	110(13.9%)

第10表 (丙) 全員螢光像縮寫

被檢集團名	活動性結核檢出數	概評		
		甲	乙	丙
大阪市N小學校	6	0	4	2
大阪市D小學校及家政女學校	10	0	4	6
阪大病院従業員	14	3	10	1
大阪T紡績工場	5	3	2	0
阪神間某工場	74	5(6.8%)	27(36.5%)	42(56.8%)
大阪市某室内労働者	59	5(8.5%)	42(71.2%)	12(20.3%)
計	168	16(9.5%)	89(53.0%)	63(37.5%)

體格榮養貧血等視診ニ依リ結核性疾患ノ疑ヒ無キ者ヲ甲トシ、疑ヒ少キ者ヲ乙トシ、疑ヒ多キ者

ヲ丙トナセリ。之ニ依リテ見ルニ、(甲)全員「フィルム」撮影ヲナセル集團ニ於テハ活動性結核 64

名中、概評甲ハ17.2%、概評乙ハ53.1%、概評丙ハ29.7%、(乙)一部「フィルム」撮影ヲ爲セル集團ニ於テハ活動性結核793名中、概評甲ハ19.4%、概評乙ハ66.7%、概評丙ハ13.9%、(丙)螢光像縮寫ヲ爲セル集團ニテハ概評甲ハ9.5%、概評乙ハ53.0%、概評丙ハ37.5%ナリキ。即チ以上ノ成績ヨリ見レバ活動性結核患者中10—20%、平均17.7%ハ概評甲ヨリ檢出セラレタルヲ以テ唯視診ノミーヨル健康概評ヲ以テ、要X線者ヲ定ムレバ多數ノ活動性結核ヲ見落ス恐レアリ。

第10項 檢出セル活動性結核患者ノ自覺症狀
 第11表ニ示セル如ク、(甲)群集團ニ於テハ種々ナル自覺症狀ノ内一ツナリトモ有スル者ハ全活動性結核患者中53.2%、(乙)群ニテハ39.3%、(丙)群ニテハ58.7%、平均43.1%ナリ。即チ活動性結核患者中約60%ハ自覺症狀ヲ有セズ。自覺症狀ハ檢診ノ際種々質問シタル後、初メテ自覺症狀ヲ想起セシメ得ル者アリ。斯クノ如ク問診方法及ヒ被檢者ノ知識程度ニ依リ自覺症狀ノ内多キハ咳嗽、喀痰、全身倦怠、感冒癖、微熱等ナリ。

第11表 檢出セル活動性結核患者ノ自覺症狀
 (甲) 全員「フィルム」撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	自覺症狀ヲ有スルモノ	内 譯									
			微熱	體重減少	喀痰	全身倦怠	胸痛	盜汗	肩凝	食思不振	感冒癖	其他
大阪市I中學校	36	14 (38.5%)	3	5	7	2	5		2		3	2
大阪帝大(昭13)醫學部學生	11	6 (54.5%)			2	3			1		2	
同上(昭14)	7	4 (57.1%)		1	1	1					2	
阪大病院新入看護婦	3	1 (33.3%)				1						
計	47	25 (53.2%)	3	6	10	7	5		3		7	2

(註) 自覺症狀ヲ2種以上有スルモノハ各ヲ各項ニ算入セリ
 其他ニハ頭痛心悸亢進等ヲ入ル
 「自覺症狀ヲ有スルモノ」中ノ%ハ活動性結核總數ニ對スル率ナリ

第11表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	自覺症狀ヲ有スルモノ	内 譯									
			微熱	體重減少	喀痰	全身倦怠	胸痛	盜汗	肩凝	食思不振	感冒癖	其他
大阪市(昭12)N小學校及幼稚園	5	1 (20.0%)						1				
同上(昭13)	4	1 (25.0%)						1				
同上(昭14)	6	2 (33.3%)				2						
神戸市高等小學校二年	43	11 (25.6%)	2	1	1	2				1	4	2
大阪府五中等學校	30	15 (50.0%)	2	3	2	4	1	1	3	1	3	2
大阪市青年學校	3	1 (33.3%)									1	
大阪府下(昭13)壯丁豫備檢診	124	44 (35.5%)	16	12	8	15	4	1	10	11	6	2

同上(昭14)	372	92 (24.7%)	39		50							3
大阪府小學教員 (昭13)	98	61 (62.2%)	9	5	30	8					27	4
同上(昭14)	104	64 (61.5%)	6	13	36	24					25	12
大阪市I會社	4	1 (25.0%)							1		1	
大阪府F工場	10	0										
開放性肺結核患者 周圍檢診	97	61 (62.9%)	42	16	59	61						4
計	900	354 (39.3%)	116	50	186	116	5	4	14	13	67	29

第11表 (丙) 全員螢光像撮影

被檢集團名	活動性結核 検出數	自覺症狀 ヲ有スル モノ	内									
			微熱	體重 減少	喀痰	全身 倦怠	胸痛	盜汗	肩凝	食思 不振	感冒癖	其他
大阪市N小學校	6	2 (33.3%)				1			1			
大阪市D小學校 及家政女學校	10	7 (70.0%)	1	1	1	1	1	2			4	
阪大病院従業員	25	11 (44.0%)	1	1	1				3	2	6	
大阪市 T紡績工場	5	5 (100%)		1							4	
阪神間K工場	74	48 (64.9%)		7	12	9	5	4		2	32	
大阪市 某室内労働者	59	32 (54.2%)	3	2	14	12	5	2		1	20	
計	179	105 (58.7%)	5	12	28	23	11	9	3	5	66	

微熱ニ就テハ教室ノ有馬等ハ本學會席上ニ於テ微熱看護婦ニ關スル調査成績ヲ報告スルモノナルガ、夏季45日間1日3回檢温ニヨリ、其内10日以上ニ於テ、37度ヲ超ユル體温ヲ示セル者ハ、被檢總員202名中57名、即チ27.9%ナリキ。該57名ニ就キ「ツ」反應、赤沈、胸部X線撮影等ノ檢診ヲ行ヒタル結果、活動性結核患者2名(3.5%)、疑活動性結核患者5名(8.8%)、要注意者8名(14.0%)ヲ檢出セリ。之等微熱看護婦52名ニ就キ約6ヶ月後冬期ニ於テ再ビ檢温ヲ爲セルニ35名ハ無熱トナリ、又16名ハ微熱アルモ勤務ヲ續ケツ、健康ヲ維持セリ。而シテ1名ハコノ間ニ滲出性肋膜炎ヲ發病セリ。此調査ニ依リテ見ルニ微熱ヲ有スル者ヨリ將來發病スル者アレドモ、微熱ヲ出シツ、健康ヲ續

クル者アル故ニ、微熱ノミニ依リテ活動性ヲ定メ得ザルナリ。

又本學會ニ於テ教室ノ池内ガ報告セル如ク甲状腺肥大ヲ認ムル者ニシテ活動性結核ヲ認メ得ズシテ尙微熱ヲ呈スル者アリ。又活動性結核ト爲シ得ザル者ニシテ月經前微熱ヲ認ムル者アリ、又夏期ニ於テハ鬱熱ヲ呈スル者アリ、病院外來ニテ微熱ヲ呈スル Eintrittfieber 及之ニ類スル者アリ。斯ル故ニ1回ノミノ檢温ニ依リテハ微熱ハ活動性診斷ノ爲ニ參考トナラザル場合多キ事ハ言ヲ俟タズ。多數人ニ就イテノ集檢ニ於テハ1回ノ檢温一テモ意味無キニ非ザルモ、微熱ノ原因ヲ判斷スルニハ慎重タルヲ要ス。

第11項 檢出セル活動性結核患者ノ既往歴
第12表ニ示セル如ク(甲)群集團ニ於テハ35.5

第 12 表 檢出セル活動性結核患者ノ結核及ビ呼吸器疾患ニ關スル既往歴

(甲) 全員「フィルム」撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核 核檢出數	既往歴ヲ 有スル者	内 譯							其 結核 疾	他 性 患
			肺結核 肺浸潤	肺 尖 加 答 兒	肺 淋 結	門 腺 核	肋腹 膜炎	肺炎	氣管 枝炎		
大 阪 市 I 中 學 校	36	17(47.2%)	2	3	1	6	3	1	1	1	
大阪帝大醫學部學生(昭13)	11	3(27.3%)	1		1	1					
同 上 (昭14)	7	1(14.3%)			1						
阪大病院新入看護婦	3	0									
神戸市外某村全村民	7	2(28.6%)		1		1					
計	64	23(35.9%)	3	4	3	8	3	1	1	1	

(註) 肺浸潤、肺尖加答兒ナル病名ハ患者ノ自訴ニヨレリ
 2種以上ノ既往歴ヲ有スルモノハ各ヲ各項ニ算入セリ
 「既往歴ヲ有スルモノ」中ノ%ハ活動性結核數ニ對スルモノナリ

第 12 表 乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被 檢 集 團 名	活動性結核 核檢出數	既往歴ヲ 有スル者	内 譯							其 結核 疾	他 性 患
			肺結核 肺浸潤	肺 尖 加 答 兒	肺 淋 結	門 腺 核	肋腹 膜炎	肺炎	氣管 枝炎		
大 阪 市 N 小 學 校 及 幼 稚 園 (昭12)	5	2(40.0%)				1		1			
同 上 (昭13)	4	0(0.0%)				1		1			
同 上 (昭14)	6	0(6.7%)						1			
神戸市高等小學校二年	43	3(7.9%)	1	1	4	2	2	2			
大阪府五中等學校	30	1(3.3%)		1	1	3	3	1	1		
大 阪 市 青 年 學 校	3	0									
大阪府下壯丁豫備檢診(昭13)	124	38(30.6%)	3	7	10	15	1	2	4		
同 上 (昭14)	372	103(27.7%)	15	25	3	51			9		
大阪府小學教員(昭13)	98	16(16.3%)	1	12	1	29		3			
同 上 (昭14)	104	33(31.7%)	4	6	1	14		6	2		
大 阪 市 I 會 社	4	0									
大 阪 府 F 工 場	10	2(20.0%)				1		1			
開放性肺結核患者周圍檢診	97	26(26.8%)		6	8	12					
計	900	275(30.5%)	24	58	30	127	9	15	16		

第 12 表 丙) 全員螢光像縮寫

被 檢 集 團 名	活動性結核 核檢出數	既往歴ヲ 有スル者	内 譯							其 結核 疾	他 性 患
			肺結核 肺浸潤	肺 尖 加 答 兒	肺 淋 結	門 腺 核	肋腹 膜炎	肺炎	氣管 枝炎		
大 阪 市 N 小 學 校	6	2(33.3%)						1	1		
大阪市D小學校及家政女學校	10	8(80.0%)				2	1	4	1		
阪大病院従業員	25	3(12.0%)	3								
大 阪 市 T 紡 織 工 場	5	2(40.0%)					1		1		
阪神間 K 工 場	71	49(69.0%)	5	10	3	15	1	13	1		
大 阪 市 某 室 内 勞 働 者	59	18(30.5%)	1	5	1	10	2	2			
計	179	82(45.8%)	12	15	6	27	11	18	1		

％、(乙)群集團ニ於テハ30.5％、(丙)群集團ニ於テハ40.8％、即チ平均33.2％ハ既往症ニ於テ肺結核、肺浸潤、肺尖加答兒、肺門淋巴腺炎、肋膜炎等ト診断セラレタル者ナリ。

斯ル點ヨリ見テ患者檢出テ目的トスル集檢ニ於テハ既往症ニ重キヲ置クベキ事ハ既ニ周知ノ如ク、必要ナル點ナリ。既往症トシテ多キハ被檢者ノ答申ニヨレバ肋膜炎ニシテ、肺尖加答兒之ニ次グ。アル5集團(大阪市I中學校、大阪市D小學校及家政女學校、阪大病院従業員、阪神間K工場、大阪市某室内労働者)ニ於テ全被檢者中既往歴ヲ有スル849例中、活動性結核患者95名、11.2％ニ相當ス。是等集團ノ全被檢者ヨリノ活動性結核檢出率ハ2％弱ナリ。詳細ハ後報ニ讓ル。

斯ル故ニ既往歴アル事ハ檢出率ヲ高カラシム。乃チ既往歴ハ要X線検査者ヲ定ムル有力ナル因子ナリ。而シテ既往歴ノ近キ程、殊ニ未ダ2、3年ヲ経過セザル者程注意スベキナリ。

實際ニ於テ幼少年ニテハ既往歴ヲ知ラザルア

リ、又成人ニテハ知ルトモ之ヲ陳述セザル者アリ、是等ハ被檢者ノ知識ニモヨル故ニ集檢ニ關スル普及ヲ計リ、既往ニ結核性疾患ノ病歴アル者ハ定期的健康診断ヲ出來ル限り度々受クル事が大切ニシテ、之ヲ義務トシテ履行セシムル方策ヲ講ズベキナリ。

第12項 檢出セル活動性結核患者ノ家族歴

家族歴ニハ同居人ヲモ合算セルガ、第13表ニ示セル如ク、(甲)群ニ於テハ家族歴ヲ有スル者ハ全活動性結核患者中20.3％、(乙)群ニ於テハ28.4％、(丙)群ニ於テハ9.4％ニシテ、以上ヲ總括スルニ平均23.3％ナリ。而シテコノ内前記5集團ニ就テ家族歴ヲ有スル者ヨリノ活動性結核檢出率ハ7.4％ニ及ベル故ニ、家族歴ヲ有セザルモノヨリノ檢出率ニ比シテ高キ事ヲ知ルナリ。總テ患者ノ答申ハ必ズシモ精確ナラザル事ニ留意スベキモ、自覺症狀、既往症、家族歴ハ要X線者ヲ決定スルタメニ參考トナル事多シ。詳細ハ後報スベシ。

第13表 檢出セル活動性結核患者ノ結核ニ關スル家族歴

(甲) 全員「フィルム」撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	家族歴ヲ有スルモノ	内 譯				
			兩親	兄弟姊妹	配偶者	子供	親戚 同居人
大阪市I中學校	36	9(25.0%)	2	7			
大阪帝大醫學部學生(昭13)	11	1(9.1%)					1
同 上(昭14)	7	2(28.6%)		1			1
阪大病院新入看護婦	3	0					
神戸市外某村全村民	7	1(14.3%)					1
計	64	13(20.3%)	2	8			1 2

(註) 2人以上ノ家族歴ヲ有スルモノハ各々各項ニ算入セリ

内譯欄ニ記載ナキモノハ唯家族ニ結核性疾患アリト言フモ本人トノ關係不詳ナルモノナリ

「家族歴ヲ有スルモノ」ノ中ノ％ハ活動性結核數ニ對スル率ナリ

第13表 (乙) 一部「フィルム」又ハ寫眞紙撮影

被檢集團名	活動性結核檢出數	家族歴ヲ有スルモノ	内 譯				
			兩親	兄弟姊妹	配偶者	子供	親戚 同居人
大阪市N小學校及幼稚園(昭13)	5	0					
同 上(昭13)	4	1(25.0%)					1
同 上(昭14)	6	1(16.7%)					1
神戸市高等小學校二年	43	10(23.3%)	6	4			1

大阪府五中等學校	30	6(20.0%)	4	2			1	
大阪市青年學校	3	0						
大阪府下壯丁豫備檢診(昭13)	124	21(16.9%)	8	10			9	6
大阪府小學教員 昭13)	98	6 (6.1%)						
同 上 昭14)	104	7 (6.7%)						
大阪市 I 會社	4	0						
大阪府 F 工場	10	1(10.0%)						
開放性肺結核患者周圍檢診	97	97 (100%)	40	51	2	1		3
計	528	150(28.4%)	58	67	2	1	11	11

第 13 表 (丙) 全員螢光像縮寫

被 檢 集 團 名	活動性結核 核檢出數	家族歴ヲ有スルモノ	内 訳					
			兩親	兄弟姉妹	配偶者	子供	親戚	同居人
大阪市 N 小學校	6	1 (16.7%)						1
大阪市 D 小學校及家政女學校	10	0						
阪大病院 従業員	25	2 (8.0%)						
大阪市 T 紡績工場	5	1(20.0%)						
阪神間 K 工場	74	8(10.8%)	1	4		1		2
大阪市 某室内労働者	59	5 (8.5%)	2	3				
計	179	17 (9.5%)	3	7		1		3

開放性結核患者ノ周圍檢診ニ就テハ既述ノ如クナル故ニ、家族又ハ同居者ニ結核性疾患アレバ其ノ接近セシ期間、或ハ接近セシ時ヨリソノ時日等ヲ知ル事ハ個人檢診ニ於テモ參考トナル事ナリ。又集檢ニ於テモ成ル可ク詳細ニ知り度キ事ナルモ、家族歴ヲ正確ニ知り得ザル場合多シ。然レ共本學會ニ於テ日赤兵庫支部療養院ノ小代ハ患者ノ家族歴ニ就テ報告セル如ク、ソノ感染機會ハ相當多ク知り得ルモノナル故ニ、之ガ究明ニ努力スベキモノナリ。

第 13 項 檢出セル活動性結核患者ノ經過

第 14 表ニ示セル如ク 14 集團ニ於テ檢出セル活動性結核 791 名ニ就キ 6 ヶ月乃至 3 ヶ年間ノ經過ヲ見タルニ、適當ニ療養セル者 28.1%、適當ナラザル療養ヲナセル者 21.9%、療養セザル者 19.8%、不明 20.3%ニシテ、其ノ經過ヲ見ルニ良好ナル者 34.4%、不變 18.1%、惡化 10.1%、死亡 5.2%、不明 33.2%ナリ。

余等ガ活動性結核ト認メタル者ノ内ニモ、相當ニ勤務ヲ續ケタル者アリ。集團ニヨリテ余等ハ活動性結核ヲ認メタル場合、(1)療養ヲ命ジタ

ル者アリ、(2)輕作業、短作業ヲ爲サシメタルモノアリ。其ノ内醫療ヲ受ケシメタル者ト受ケシメザル者トアリ。(3)全作業ヲ爲スモ休養ヲ多クシ、非衛生的生活ヲ爲サザラシメタル者アリ。何レニ於テモ喀痰中ニハ結核菌ノ檢出アル場合アルヲ以テ他人ヘノ傳染ニ就テハ極力嚴重ナル注意ヲ與フルニ努メタリ。

集團檢診ニ依リ檢出セル活動性結核ノ内ニモ、其ノ病型ニ依リ、年齢ニ依リ、又職業ニ依リ、更ニ當人ノ財力等ニ依リテ種々ニ處置セザルベカラズ。余等ハ療養セシメテ經過良好ナルヲ見ルモ、亦療養セザルモ不變或ハ經過良好ナル場合モアリ。病變程度、年齢等ニ依リテ、將來ノ方針ヲ示スニハ慎重タラザルベカラズ。大阪市某事務所ニ於テ檢出セル男子患者ニテハ活動性結核ヲ有シ乍ラ普通ニ勤務セル者アリ。又小學校教員一テモ相當ノ陰影ヲ見ル者ニテ勤務ヲ續ケタルモノアリ。是等ハ余等ノ個人檢診ニ於テモ經驗スル處ナルモ、集團檢診ニ於テ多數ノ斯ル例ヲ見テ驚ク所ナリ。

斯ル一面アルモ、今日ノ余等ノ經驗ニテハ療養

第11表 集團檢診ニテ檢出セル活動性結核患者ノ經過

被檢集團名	檢診年月	調査年月	活動性結核	病 症			療 養 方 法			經 過				
				Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	療養ニ不適當ニ療養セザル	療養ニ適當ニ療養セザル	不明	良好	不變	惡化	死亡	不明
大阪市I中學校	14-10	15-3	36	9 25.0%	17 47.2%	10 27.8%	12 33.3%	7 19.4%	17 47.2%	9 25.0%	8 22.2%	2 5.6%	8 22.2%	
大阪帝大醫學部學生	13-4	15-3	11	4	7	9	2			8		2	1	
同 上	14-5	15-3	7	1	3	3	6	1		4		2	1	
阪大病院新人看護婦	12-1 13-10	15-3	3		3	3	3			1	1	1		
大阪市N小學校及幼稚園	12-10	15-3	5	1	1	2			3	2			3	
同 上	13-10	15-3	4		4	3			1	2	1		1	
同 上	14-11	15-3	6	2	4	5	1			3	3			
大阪府五中等學校	11-2	15-3	30	5 16.7%	12 40.0%	13 43.3%	12 40.0%	8 26.7%	5 16.7%	15 50.0%	4 13.3%	1 3.3%	5 16.7%	
大阪府下莊J豫備檢診	11-11	15-2	372	69 18.7%	177 47.2%	89 23.9%	70 18.8%	99 26.6%	114 30.6%	152 40.9%	68 18.3%	38 10.2%	111 30.6%	
大阪府小學校教員	13-8 13-11	14-10	98	35 35.7%	54 55.1%	9 9.2%	46 46.9%	23 23.5%	1 1.0%	28 28.6%	18 18.4%	9 9.2%	28 28.6%	
同 上	14-11	15-3	104	16 15.4%	63 60.6%	25 24.0%	17 16.3%	20 19.2%	10 9.6%	57 54.8%	16 15.4%	12 11.5%	1 1.0%	57 54.8%
大阪府F工場	13-7 13-6	15-3	10	4	4	2	4	5	1	1		3	6	
開放性肺結核患者周圍檢診	12-15	15-3	97	6 6.2%	37 38.1%	54 55.7%	16 16.5%	32 33.0%	18 18.6%	24 24.7%	17 17.5%	8 8.2%	31 32.0%	
堺市某事務所	12-5	15-2	8	5	2	1	1	1	6		6	2		
計	期間 6ヶ月	一3ヶ年	791	150 19.0%	325 41.1%	316 39.9%	222 28.1%	173 21.9%	157 19.8%	272 34.4%	143 18.1%	80 10.1%	255 32.2%	

ヲ爲スベキニ之ヲ爲サズシテ惡化スル者多キ故一、集團檢診ニ依リテ檢出セル活動性結核ノ處置ニ就テハ國家的ニモ社會的ニモ考慮スベキナリ。

第 15 表ニ於テハ余等ノ檢出セル疑活動性結核者 379 名ヲ 6 ヶ月乃至 3 ヶ年觀察セル一、經過

良好ナル者 125 名、即チ 33.0%、不變 16.1%、惡化 4.7%、死亡 0.5%、不明ハ 45.6%ナリ。不明ナル者多キ故ニ經過ノ如何ヲ確メ得ザルモ、衛生的生活ヲ注意スル事ニヨリテ、相當多數ニ良好ナル經過ヲ取ル者ヲ見、而モ惡化及ビ死亡ハ比較ノ少數ナリキ。

第 15 表 集團檢診ニテ檢出セル疑活動性結核者ノ經過

被檢集團名	檢診年月	調査年月	疑活動性結核	經 過				
				良 好	不 變	惡 化	死 亡	不 明
大阪帝大醫學部學生	13-4	15-3	30	22	4	4		
同 上	14-5	15-3	22	17	1	4		
阪大病院新入看護婦	12-4 14-10	15-3	2		1			1
大阪市 N 小學校及幼稚園	12-10	15-3	10	1	7			2
同 上	13-10	15-3	5	2	2			1
同 上	14-4	15-3	8	2	6			
大阪府下壯丁豫備檢診	14-11	15-2	128	24 18.8%	13 10.2%	4 3.1%		87 68.0%
大阪府小學教員	14-11	15-2	109	26 23.9%	21 19.3%	6 5.5%		56 51.4%
開放性肺結核周圍檢診	12-15	15-3	65	31 47.7%	6 9.2%		2 3.1%	26 40.0%
計	期間 6 ヶ月—3 ヶ年		379	125 33.0%	61 16.1%	18 4.7%	2 0.5%	173 45.6%

檢出セル活動性結核者ニ就テ、其後定期的檢診ヲ嚴ニ行ヒ、始終注意ヲ與フルナラバ、豫防及ビ治療ニ對シテ尚ヨリ好成績ヲ得ベキモノト考フ。更ニ豫防院、療養所等ノ設備ヲ見レバ疑活動性ヨリノ發病防止及ビ活動性患者ノ治癒ニヨリ、ヨリ良好ナル效果ヲ擧ゲ得ベシト考ヘラル。第 15 表ニ於テ阪大醫學部學生、新入看護婦及ビ N 小學校及ビ幼稚園ノミニ就テ見レバ、良好 44 名、不變 21 名、惡化 8 名、不明 4 名ニシテ良好及ビ不變ハ 84%ヲ占ムル故一、集檢ニヨル發病防止ハ努力ニヨリ尚ヨリ以上ノ效果ヲ擧ゲ得ベシト考ヘラル。

尙活動性結核ト認メザル者ニ於テモ出來得レバ

1 年 2 回、傳染危險多キ者ニハ尚ヨリ頻回ニ、一般ニテモ少クトモ 1 年ニ 1 回ノ集團檢診ヲ行フベキナリ。前述ノ第 16 表ニ示セル如ク最初檢診時ノ「ツ」反應陰性者ヨリノ結核發病相當ニ多キ事及ビ既ニ述タル如ク赤沈値ノ 1—10 或ハ 11—20 ノ者ヨリモ相當數ニ結核發病アル點ヨリ考ヘ、「ツ」反應陰性及ビ赤沈常値ハ將來ノ結核發病ヲ否定スルモノニ非ザルナリ。之レ集團ノ全員ニ Terminmässige Untersuchung, Periodical examination 定期的檢診ヲ行フ必要アル所以ナリ。殊ニ初感染疾患ノ檢出、豫防ニハ定期的檢診ヲ要スル事ヲ明示セリ。

第 4 章 總 括

1. 余等ハ各種集團計 32 回被檢總人員 106,842 名ニ就テ結核ニ關スル集團檢診ヲ行ヒ、活動性

結核ヲ 1,208 名即チ 1.1%ニ檢出シ得タリ。

2. 集團檢診ニ於テ檢出セル活動性結核ノ X 線

第16表 集團檢診後結核發病セル患者ノ最初ノ「ツ」反應

被檢集團名	性 年齢	「ツ」反應 検査方法	檢診 年月	發病調 査年月	被 檢 總人員	結核發 病者數	最初ノ「ツ」反應陽性度						水泡 形成
							-	±	+	++	+++	####	
大阪市N小學校及幼稚園	↑ 7-13	↑ 1:2,000 48時間	12-10	13-10	1,003	5 0.5%	1 0.3%	1 1.1%	1 1.2%	1 0.9%	1 2.1%		
同上	↑	↑	13-10	14-11	809	6 0.7%	4 1.0%	1 2.0%			1 2.0%		
大阪帝國大學醫學部學生	↑ 21-32	↑	13-4	14-5	395	10 2.5%	3 8.6%	1 8.3%	3 4.8%	1 1.4%	2 1.1%		
同上	↑	↑	14-5	15-3	423	5 1.2%	3 6.5%				2 0.9%		
奈良縣中等學生	↑ 13-20	↑	8-4	10-4	703	23 3.3%			5 4.7%		18 16.8%		
奈良縣小學生	↑ 7-13	↑	↑	↑	573	8 1.4%	1 0.2%	1 1.5%	1 3.6%	2 10.5%	3 8.1%		
阪大病院看護婦	↑ 15-24	↑	12-4 14-10	15-3	337	52 15.4%	22 20.4%	6 20.0%	3 9.7%	9 14.8%	4 12.1%	7 11.5%	1 7.7%
大阪府教員小學校	↑ 21-65	↑	13- ⁷ / ₁₁	14-10	11,844	58 0.5%	1 0.1%		1 0.2%	10 0.3%	10 0.6%	45 0.7%	1 0.3%
大阪府F工場	↑ 13-50	↑	13-8	15-3	2,850	173 6.1%	93 11.2%	6 5.0%	7 3.9%	10 8.8%	20 10.0%	28 1.6%	9 5.6%
紡績女工手	↑ 13-50	↑	13- ¹ / ₁₀	14-9	13,394	332 2.5%	15 2.0%	33 1.7%	31 1.6%	27 2.2%	40 3.0%	320 2.3%	
					35,216	787 2.2%	213 1.7%				574 2.6%		
計			10ヶ月-3ヶ年		67,547	1,459 2.1%	455 2.0%				1,004 2.2%		

(註) 各陽性度中%ハ同一陽性度全被檢者ニ對スル率ナリ

像、「ツ」反應、赤沈、胸部理學的所見、喀痰中結核菌、健康概評、自覺症狀、既往歴、家族歴、經過ニ就テハ、既ニ第3章各項ニ於テ述ベタル處ナリ。

3. 集團檢診中、貧困結核患者周圍檢診ニヨル檢出率高キ故ニ周圍檢診ヲ勵行スベキモノナリ。其他種々ナル集團、殊ニ大都會ニ於ケル集團特ニ室内勞動者等ニ於テモ亦檢出率相當ニ高キヲ以テ、集團檢診ヲ大イニ勵行スベキモノト考フ。特ニ傳染危險ヲ與ヘ得ル職業ノ集團ニ於テ檢診ヲ勵行スベキナリ。之ニヨリ發病防止及治癒ヲ計ルノミナラズ他人ヘノ傳染ヲ大イニ制限シ得ベシ。

4. 檢診ヲ行ヒタル結果、活動性結核患者、要注意結核感染者ニ分チ、活動性結核患者ハ成ル可ク療養セシメ度キモ療養ヲナシ得ザル者アリ、又職業ニヨリテハ短或ハ輕作業、全作業ヲ爲サシムルモ生活ニ注意セシムル事ニヨリ惡化

ヲ防ギ得ル者アリ、又其間治癒スル者アレドモ、是等ノ集團檢診ニヨリテ發見セツレタル活動性結核、尙進ンデ疑活動性結核ニ對シ適當ナル處置ヲ爲スベク、當局者ノ考慮ヲ要スベシ。

5. 檢診ノ方法トシテハX線大撮影ヲ全員ニ施ス事ハ最モ理想的ナルモ費用ノ關係ヨリ一部撮影ヲ爲ス場合ニハ先ヅ「ツ」反應陽性者ヲ選ビ之ヲ行フ時ハ「ツ」反應陰性者ニハ活動性結核少キヲ以テ大過無カルベシ。更ニ「ツ」反應陽性者全部ニ大撮影ヲ爲シ得ザル場合ハ、胸部理學的症狀、自覺症狀、既往歴、家族歴、赤沈等ヲ參考トシ要X線者ヲ決定スベキナリ。斯ル場合ニ於テハ要X線者ハ全員ノ5%ヨリ20%ニ達スルモ無論範圍ヲ擴大シ、20%以上ヲモ撮影シ得レバヨリ確實ナリ。

アブリユー、ホールフェルデルニ依ル螢光像縮寫法ハ集團檢診ニ於テ多數ノ人ヲ比較的短時日ニ檢査シ得ル故ニ適當ナル方法ナリト考フ。但

シ此ノ縮寫像ニヨリテハ肺結核ノ陰影ノ性狀明瞭ナラザル故ニ、多少ノ陰影アルモノニハ更大撮影ヲ行フ事ガ活動性診斷ノ爲ニ必要ナリ。此場合活動性診斷ヲ爲スニ際シテハ種々ナル他ノ所見ヲ參考ト爲ス事ハ大撮影ノミヨリ際ト同様ナリ。「ツ」反應陽性者が相當多キ集團ニ於テハ螢光像縮寫法ハ「ツ」反應ノ如何ニ拘ラズ全員ニ施ス事ハ「ツ」反應檢査ヲ省略スル場合ニ行フベキ一方法ナルモ、前述ノ如ク「ツ」反應陰性者ニハ活動性結核甚ダ少ナキヲ以テ、「ツ」反應陰性者多キ集團ニテハ費用ノ關係上、先ヅ「ツ」反應ヲ檢シ其ノ陽性者ノミニ螢光像縮寫ヲ行フモ可ナルベシ。但シ之ハ結核ニ關スル集團檢診ニ重點ヲ置ケル場合ナルハ勿論ナリ。尙集團檢診ニヨリテ活動性ヲ定ムル必要無ク、例ヘバ採用

檢診ニ際シテ多少ノ陰影アル者ヲ除外スルモ支障無キ場合ニ於テハ螢光像縮寫法ハ利用セラルベキ場合多カルベシ。比較ノ少人數ノ集團ニテハ普通「プロマイド」ヲ以テスル大撮影モ經費少キ場合ハ利用スベキ價値アリ。

要スル一余等ノ集團檢診ノ成績ヨリ見ル一、一般實際嚮家ヲ含ム全診療機關ハ、患者ノ來ルヲ待タズ、進ンデ之ヲ搜シ出シ、早期診斷、早期治療、發病豫防、傳染豫防等ヲ講ズル事ハ、我國ノ結核豫防ニ對シ甚ダ緊要ナリト考フ。而シテ其方法ニ就テモ尙大イニ研究ヲ要スベキモ、螢光像縮寫ハ多人數集團ニ行フニハ大イニ利用セラルベク、少人數集團ニテハ普通「プロマイド」等ヲ以テスル大撮影モ亦利用セラルベキモノト考フ。

文 獻

(主トシテ肺結核患者發見ニ關スル集團檢診ノ文獻ヲ掲ゲ「ツ」反應ノミノ文獻ハ省略セリ)

I 螢光像縮寫法間接撮影ニ關スルモノ。

- 1) 古賀良彦, レ線深部寫眞法及ビ間接撮影法ノ應用. 結核一四卷五號, 昭一一.
- 2) 古賀良彦, レ線間接撮影法ノ應用ニ關スル研究. 實踐醫學. 八卷, 五號, 昭一三.
- 3) 相川武雄, 東大學生ニ就テノ集團「レントゲン」檢査報告書(一部分ハ臨牀ノ日本. 七卷, 六號, 昭一四).
- 4) 相川武雄, 集團レ線檢診ノ經驗—古賀氏間接撮影法ニヨル. 結核ノ臨牀. 二卷, 四號, 昭一四.
- 5) 相川武雄, 「レントゲン」間接撮影法閑談. 結核ノ臨牀. 二卷, 一二號, 昭和一一.
- 6) 相川, 市川, 間接撮影法(螢光板「レ」線寫眞術)ニヨル尿路「レ」線像ニ就テ. 東西醫學. 六卷, 六號, 昭一四.
- 7) 寺岡正, 齋藤照, 青少年ノ「レ」線集團檢診ニ就イテ(間接撮影ニヨル). 結核ノ臨牀. 二卷, 八號, 昭一四.
- 8) 稻田五郎(名古屋), 「レ」線間接撮影法ノ最近. 診斷ト治療. 二六卷, 四號, 昭一四.
- 9) 稻田五郎, 結核對策ヨリ見タル「レ」線攝影. 結核ノ臨牀. 二卷, 九號, 昭一四.
- 10) Abreu, M. de, Verfahren und Apparatur zur kollektiven Röntgenphotographie, (Indirekte Röntgenaufnahme) Zeitschr. f. Tbk. 80/2 1938.
- 11) Abreu, M. de., Zwei Jahre kollektive Röntgenphotographie, Fortschr. d. Röntgenstrahlen. Nr. 47, 1938.
- 12) Janker, R., Die Leuchtschirmphotographie (Ein Bericht über eigene 12 jährige Erfahrungen). Fortschr. d. Röntgenstrahlen 58/6 1938.
- 13) Brauscheid,

- F., Steps, H. und Wandersleb, Fortschr. d. Röntgenstrahlen, 58/2, 1938.
- 14) Holfelder, H., Verfahren und Apparatur zur Kollektiven Röntgenphotographie (Indirekte Röntgenaufnahme). nach Prof. Dr. Manoel de Azevedo, Mitglied der Academie Nacional de Medicina zu Rio de Janeiro. Fortschr. d. Röntgenstrahlen, 58/2. 1938.
- 15) Holfelder, H., Münch. med. Wschr. Nr. 38.
- 16) Brauscheid, F., Dtsch. med. Wschr. Nr. 41, 1938.
- 17) Holfelder, H. und Berner, F., Münch. med. Wschr. Nr. 47, 1938.
- 18) Böhme, W., Fortschr. d. Röntgenstrahlen 58/Tagungsheft 1938.
- 19) Janker, R., Leuchtschirmphotographie Röntgenreihenuntersuchung, Tuberkulose-bibliothek, Nr. 69, 38.
- 20) Berner, F., Röntgenpraxis 11/2, 1939.
- 21) Abreu, M. de., American Journal of Röntgenology, 41/4, 39.
- 22) Franke, H., Dtsch. med. Wschr. Nr. 22, S. 890, 1939.
- 23) Janker, R., Röntgenpraxis 11/5, 39.
- 24) Griesbach, R., Zeitschr. f. Tbk. 82/2-3, 1939.
- 25) Böhme, W., Dtsch. Tbk. bl. 13, H. 6, 1939.
- 26) Pfaff, W., Dtsch. med. Wschr. Nr. 39, 1939.
- 27) Braeuning, H., Die Röntgen-Reihenuntersuchung Röntgenpraxis, 11/7, 1939.
- 28) Schopper, E., Fortschr. d. Röntgenstrahlen, 60/2, 1939.
- 29) Braeuning, H., Die Röntgen-Reihenuntersuchung. Fortschr. d. Röntgenstrahlen, 60/Tagungsheft, 1939.
- 30) Diehl, K., Beitr. z. Klinik. d. Tbk. 93/3. 1939.
- 31)

Holfelde, r. H. und Berner, F., Atlas des Röntgenreihenbildes des Brustraumes (auf Grund der Auswertung von über 9,000,000 Röntgenreihen-schirmbildern) 1939. 32) Holfelder, H., Z. Tbk. 83/5-6, 1939. 33) Behr, do. 34) Berner, F., Die röntgenfachärztliche Auswertung von über 640,000 Röntgenaufnahmen aus Mecklenburg, do. 35) Pfreimbter, R., do. 36) Böhme, W., do. 37) Braeuning, H., do. 38) Fournié et Fvézouls, Revue de la tuberculose Tom. 5, Nr. 7, 1939. 39) Sayé, L. et Caubarère N. L., Presse méd. Nr. 24, 1939. 40) G. Maingot, Rev. d. l. tbc. Tom. 5, Nr. 7, 1939. 41) F. Ickert, Dtsch. med. Wschr. Nr. 22, S. 1253, 1939. 42) Köster, Ref. in Dtsch. med. Wschr. Nr. 22, S. 1253, 1939. 43) H. Ulrici, Dtsch. med. Wschr. Nr. 22, 1939. 44) B. A. Dormer & K. G. Collender, Lancet June 10, No. 23, Vol. 1, 1939. 45) 河石九二夫ソノ他, 生體「レントゲン」活動寫眞撮影法=就イテ, 「グレンツゲビート」, 一〇卷, 一〇號, 昭一一. 46) 牧野利三郎ソノ他, 「レントゲン」活動寫眞=關スル研究. 日本放射線醫學會雜誌. 四卷, 三號, 昭一一. 47) 清野, 井上, 平福, 集團胸部「レントゲン」検査=就テ(其一). 軍醫團雜誌. 三二一, 昭一五.

II 本邦ニ於ケル結核患者發見=關スル文獻

1) 熊谷岱藏, 東京醫事新誌. 第二九六三號, 昭一一. 2) 岡捨巳, 結核. 第一五卷, 第五號, 昭一二. 3) 中村隆, 結核. 第一五卷, 第五號, 昭一二. 4) 熊谷岱藏, 第一〇回日本醫學會誌. 昭一三. 5) 栗野佐佐武, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 6) 星圭, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 7) 三神秋子, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 8) 熊谷岱藏, 星圭, 日本醫事新報. 第八七五號, 昭一四. 9) 星圭, 東北醫學雜誌. 第二五卷, 第二號, 昭一四. 10) 宮坂治雄, 東北醫學雜誌. 第二四卷, 第六號, 昭一四. 11) 楠信雄ソノ他, 結核. 第一七卷, 第五號, 昭一四. 12) 岡捨巳, 東北醫學雜誌. 第二五卷, 第二號, 昭一四. 13) 横山茂美, 東京醫事新誌. 第三一五-一號, 昭一四. 14) 有馬, 山田, 平澤, 金谷, 結核. 第七卷, 第五號, 昭四. 15) 有馬, 菊池, 松田, 結核. 第八卷, 第二號, 昭五. 16) 金谷, 清水, 結核. 第一五卷, 第五號, 昭一二. 17) 有馬英二, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 18) 有馬英二, 診斷ト治療. 第二五卷, 第八號, 昭一三. 19) 有馬, 金井, 日本臨牀結核. 第一卷, 第一號, 昭一五. 20) 清水寛, 日本臨牀結核. 第一卷, 第二號, 昭一五. 21) 岡田, 結核. 第一七卷, 第二號, 昭一四. 22) 岡通, 「グレンツゲビート」, 第六年, 第五號, 昭七. 23) 岡治道, 診斷ト治療. 臨時増刊 昭八. 24) 坂口康藏, 實驗醫報. 第二三卷, 第二七四號, 昭一二. 25) 稻田

淳, 結核. 第一四卷, 第五號, 昭一一. 26) 宮川米次, 臨牀内科. 第三卷, 第五, 六, 七, 八, 九, 一〇, 昭一二. 27) 山下驥, 體育研究. 第五卷, 第一號, 昭一二. 28) 稻田淳, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 29) 小池定雄, 結核. 第一七卷, 第五號, 昭一四. 30) 中村徹, 日本放射線醫學會雜誌. 第六卷, 第三號, 昭一三. 31) 中島, 中村, 診斷ト治療. 第二五卷, 第一號, 昭一三. 32) 芦澤藤亮, 結核. 第一七卷, 第五號, 昭一四. 33) 松田道雄, 結核. 第一七卷, 第五號, 昭一四. 34) 曾我幸夫, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 35) 秋月正一, 結核. 第一七卷, 第五號, 昭一四. 36) 小林義雄, 東京醫事新誌. 第二七二六號, 昭六. 37) 小林義雄, 結核. 第九卷, 第一〇號, 昭六. 38) 小林義雄, 東京醫事新誌. 第二六六三號, 昭五. 39) 高田六郎, 海軍軍醫會雜誌. 第一九卷, 第五號, 昭五. 40) 高田六郎, 海軍軍醫會雜誌. 第二三卷, 第三號, 昭九. 41) 小田俊郎, 結核. 第一六卷, 第一二號, 昭一三. 42) 小田俊郎, 臺灣醫學會雜誌. 第三五卷, 第一三四號, 昭一一. 43) 小田俊郎, 臺灣醫學會雜誌. 第三六卷, 第二九號, 昭一二. 44) 日置, 井下, 米田, 田中, 結核. 第一五卷, 第三號, 昭一二. 45) 中谷繁一ソノ他, 結核. 第一五卷, 第五號, 昭一二. 46) 今村荒男, 日本醫事新報. 第七九四, 昭一二. 47) 今村荒男, 日本醫事新報. 第七九六號, 昭一二. 48) 西垣, 八太, 寶來, 大阪醫事新誌. 第九卷, 第五號, 昭一三. 49) 藤井, 遠藤, 診斷ト治療. 第二五卷, 第七號, 昭一三. 50) 寶來, 木村, 大阪醫事新誌. 第九卷, 第一二號, 昭一三. 51) 貴島, 鶴崎, 山本, 池内, 日本公衆保健協會雜誌. 昭一四. 52) 藤井明, 新興醫學. 第二卷, 第六號, 昭一四. 53) 山本, 池内, 宮西, 中央醫學. 第九卷, 第一號, 昭一五. 54) 池内, 有馬, 坂本, 山本, 中央醫學. 第九卷, 第一號, 昭一五. 55) 今村荒男, 結核. 第一六卷, 第五號, 昭一三. 56) 今村, 志村, 大阪醫事新誌. 第九卷, 第二號, 昭一三. 參考 57) Heisig, F., Ztschr. f. Tbk. Bd. 82, H. 6, S. 386, 1939. 參考 58) Potter, H. E., J. A. M. A. Vol. 110, No. 18, 1938. 59) 今村荒男, 日本臨牀結核. 第一卷, 第一號, 昭一五. 60) 今村荒男, 日本公衆保健協會雜誌. 昭一四.

III 米國ニ於ケル結核患者發見=關スルモノ

1) Chadwick, H. D., Am. Rev. Tbc., Vol. 15, p. 601, 1927. 2) Mcphedran, F. M., Am. Rev., Tbc. Vol. 16, p. 479, 1927. 3) Opie, E. L., Am. Rev. Tbc., Vol. 16, p. 468, 1927. 4) Mcphedran, F. M., Am. Rev. Tbc., Vol. 20, p. 532, 1929. 5) Goreon, B. & Cashman, W. M., J. A. M. A., Vol. 94, No. 21, 1930. 6) Hetherington, H. W., Arch. int. Med., Vol. 48, p. 734, 1931. 7) Fitz, R., J. A. M. A. Vol. 96, p. 2063, 1931.

8) **Soper, W. B. & Wilson, G. L.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 26, p. 548, 1932. 9) **Webb, G. B.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 25, p. 42, 1932. 10) **Brachmann, D. S.**, Am. Rev. Vol. 26, p. 89, 1932. 11) **Proceedings**, of 13th Annual Meeting of the American Student Health Association., Bull., No. 16, 1932. 12) **Myer, J. M.**, Tubercle, Vol. 14, p. 212, 1933. 13) **Haywood, E., Moriss, W. H. & Wilson, G. C.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 28, p. 637, 1933. 14) **Steidl, J.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 26, p. 98, 1932. 15) **Wilsner, D. H. & Smith, S. M.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 29, p. 170, 1934. 16) **Hall, G. A. M. & Chang, C. P.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 30, p. 193, 1934. 17) **Evarts, H. W.**, a. o., Am., Rev. Tbc., Vol. 29, p. 123, 1934. 18) **Dufault, P. & Robinson, D.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 29, p. 98, 1934. 19) **Martin, D. C., Pessar, A. T. & Goldberg, J. A.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 29, p. 182, 1934. 20) **Myers, J. A.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 36, p. 355, 1937. 21) **Douglas, B. H. & Vaughan, H. F.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 36, p. 325, 1937. 22) **Vaughan, H. F. & Douglas, B. H.**, J. A. M. A. Vol. 109, No. 10, 1937. 23) **Hetherington, H. W.**, J. A. M. A., Vol. 109, No. 24, 1937. 24) **Eighteenth**, Annual Meeting of the American Student Health Association., Bull., No. 21, 1937. 25) **Ferguson, L. H.**, Am. Rev. Tbc. Vol. 36, p. 478, 1937. 26) **Robins, A. B.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 38, p. 418, 1938. 27) **Hetherington, H. W. & O.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 38, p. 406, 1938. 28) **Bloch, R. G. a. o.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 37, No. 2, 1938. 29) **Gass, R. S. a. o.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 38, No. 6, 1938. 30) **Long, E. R.**, Tubercle. Vol. 19, No. 6, 1938. 31) **Lindberg, D. O. N.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 5, 1939. 32) **Mencia, J. R. a. o.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 5, 1939. 33) **Cummings, D. E. Downs, R. N.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 4, 1939. 34) **Sawyer, W. A.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 4, 1939. 35) **Logie, A. J.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 3, 1949. 36) **Sopor, W. B., Amberons, J. B.**, Am. Rev. Tbc. Vol. 39, No. 1, 1939. 37) **Davies, R., Scherer, C. A.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 6, 1939. 38) **Knies, P. T.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 6, 1939. 39) **Myers, J. A.**, J. A. M. A Vol. 112,

No. 19, 1939. 40) **Palmer, D. W.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 6, 1939. 41) **Long, E. R.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 42) **Knies, P. T.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 5, 1939. 43) **Plankett, R. E.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 39, No. 2, 1939. 44) **Bruce, H. D.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 45) **Hunt, L. W.**, Arch. int. Med., Vol. 64, No. 1, 1939. 46) **Douglas, B. H.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 47) **Ianne, C. H.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 48) **Pastor, J. R.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 49) **Dearing, W. P.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 50) **Douli, J. A.**, Am. Rev. Tbc., Vol. 40, No. 6, 1939. 51) **Brahd-y, L.**, J. A. M. A., Vol. 114, No. 2, 1940.

IV 米國ヲ除ク獨逸其他ノ文獻

1) **Braeuning, H.**, Das rechtzeitige Auffinden der Tuberkulösen.—Die Tuberkulosebekämpfung vor neuen Aufgaben und Problemen. Ergebn. ges. Tbk-forschug. I. 1930. 2) **Kaiser-Petersen, J. E.**, Über Reihen-untersuchungen mit Röntgenstrahlen. Ergebn. ges. Tbk-forschng. VIII. 1937. (以上兩者殊ニ Kaiser-Petersen ノ著ニ於テ甚ダ多數ノ文獻ヲ引用セリ) 3) **Vajda, L.**, Brauers Beitr. Bd. 87, S. 713, 1936. 4) **Schröder, E.**, Ergebn. ges. Tbk-forschng VIII, 1937. 5) **Ermisch, K.**, Ztschr. Tbk. Bd. 77, S. 353, 1937. 6) **Weber, G. & Dusch, E.**, Ztschr. Tbk. Bd. 78, S. 336, 1937. 7) **Griesbach, R. & Wieda, A.**, M. M. W. 85, Jg. Nr. 8, 1938. 8) **Bidermann, A. & Alibert, N.**, Rev. d. l. Tbc. 5, Ser. Tome 4, Nr. 3, 1938. 9) **Lotz, W.**, (1938), Cit. Zbl. f. ges. Tbk-forschug Bd. 50, H. 5/6, S. 344, 1939. 10) **Langelez, A.**, (1938), cit. Zbl. f. ges. Tbk-forschng. Bd. 50, H. 5/6, S. 345, 1939. 11) **Vajda, L.**, (1937), Cit. Ztschr. Tbk. Bd. 79, S. 175, 1938. 12) **Jrüb, P.**, Tuberkulose Bibliothek. Nr. 76, 1939. 13) **Sadowski, S.**, Ztschr. Pd. 82, S. 353, 1939. 14) **Uirici, H.**, D. M. W. 65 Jg. S. 869, 1939. 15) **Meller, J.**, W. Kl. W. 52, Jg. Nr. 1, 1939. 16) **Kaestner, E.**, Brauers Beitr. Bd. 93, H. 6, 1939. 17) **Sayé, L.**, (1939), Cit. Zbl. f. ges. Tbk-forschng. Bd. 51, H. 1/2, S. 48, 1939. 18) **Sayazo, G. & Gomez CasCo, M.**, (1939), Cit. Zbl. f. ges. Tbk-forschng Bd. 51, H. 7, S. 367, 1939.